京都市の学校評価システム

令和７年度実施状況

－学校・家庭・地域が「自らを振り返り」「互いに高め合う」－

令 和 ８ 年 ９ 月

京都市教育委員会

目　　次

1　京都市における学校評価の考え方　・・・・・・・・・　1

2　「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価　・・・・・・・・・　4

3　学校評価の現状や課題と今後の方向性について　・・・・・・・・・　6

〔参考〕

京都市立鳳徳小学校における実践事例　・・・・・・・・・　10

京都市立洛西中学校における実践事例　・・・・・・・・・　28

1　京都市における学校評価の考え方

本市では、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育を推進するため、また、そのための教育活動を絶えず、改善するために、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都方式」の学校評価を、全国に先駆けて実施し、「学校運営の組織的・継続的な改善」や「教育活動の質的向上」等に努めてきた。

国においては、平成１９年に学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」が努力義務とされた。

本市では、これらに加え、学校教育の質の向上につなげるため、法令上の義務付けのない第三者評価として、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置し、学校評価の実施状況を客観的に検証するとともに、「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」に基づき、次の４点を柱とし、各学校・園において、学校運営協議会等と密接に連動しつつ学校評価の充実に努めている。（参考１－１～参考１－４参照）

（１）学校評価をみんなのものにする （学校関係者評価）

各学校では、学校教育目標やその実現に向けての具体的実践に関わる評価内容を全教職員で共有し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげている。併せて、学校運営協議会等による「学校関係者評価」の評価結果を公表し、保護者や地域の方々とも共有することを通して、学校評価は、子どもたちの学校生活を「市民ぐるみ・地域ぐるみ」で「よりよいもの」とするための重要な役割を担っている。

（２）当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、評価者自身がよりよい学校づくりを進める当事者であるという意識を持つことが肝要である。このため、学校関係者評価においても、「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、社会の宝である子どもや、学校のために何ができるのかを、「自分ごと」として捉え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」を学校運営協議会等で協議、行動に繋げていただくことにしている。

（３）自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、足りないところを指摘するだけではなく、同じ目標を実現するためにそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」、そして「子どもたちは、自らの学習や活動に向かう学びの姿勢を振り返る」など、お互いに補い合い、高め合う確かな信頼関係の下で「みんなごと」としての学校評価を進めている。

（４）学校の魅力を発見し、発信する

学校教育活動への保護者や地域の方の深い理解と協働を得ていくためには、学校の魅力や課題の発見につながる工夫に富んだ情報発信が必要である。

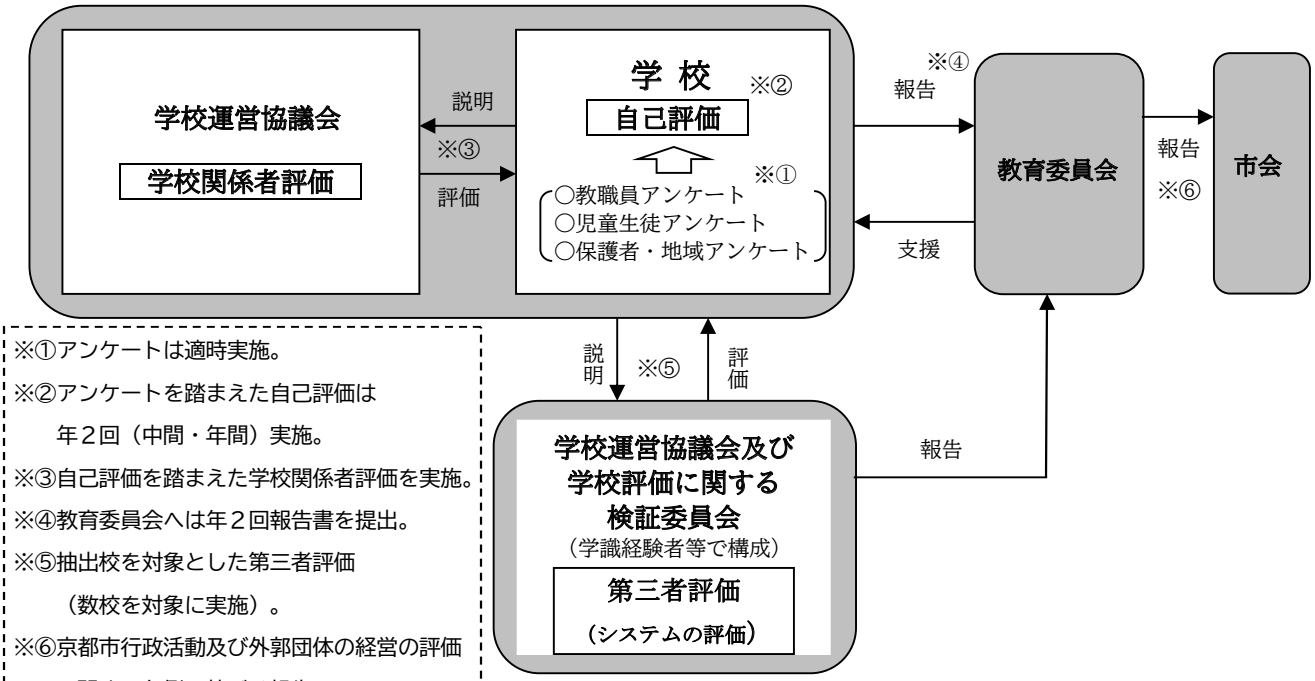
そのため、本市では、ICT を活用し、アンケートの作成・集計・分析の効率化を図りつつ、アンケート結果や取組の成果、課題に対する改善策等をわかりやすくとりまとめ、全校のホームページへの掲載や学校だよりの配布等を通じて積極的に情報発信している。

参考１－１ 制度導入の経緯

平成１３年	学校評価の試行実施（校長会との共同プロジェクト発足）
平成１５年　４月	全国に先駆けて全校・園で学校評価を開始、「京都市学校評価ガイドライン」の策定
平成１６年　３月	全校・園での評価結果の公表
平成１９年　４月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第２版）
平成１９年　６月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行 学校教育法の改正（学校評価の根拠規定、学校の積極的な情報提供についての規定を新設）
平成１９年　７月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 （学校運営協議会に関する専門委員会　学校評価部会を組織改正）
平成２１年　６月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第３版）

参考１－２

≪自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図≫

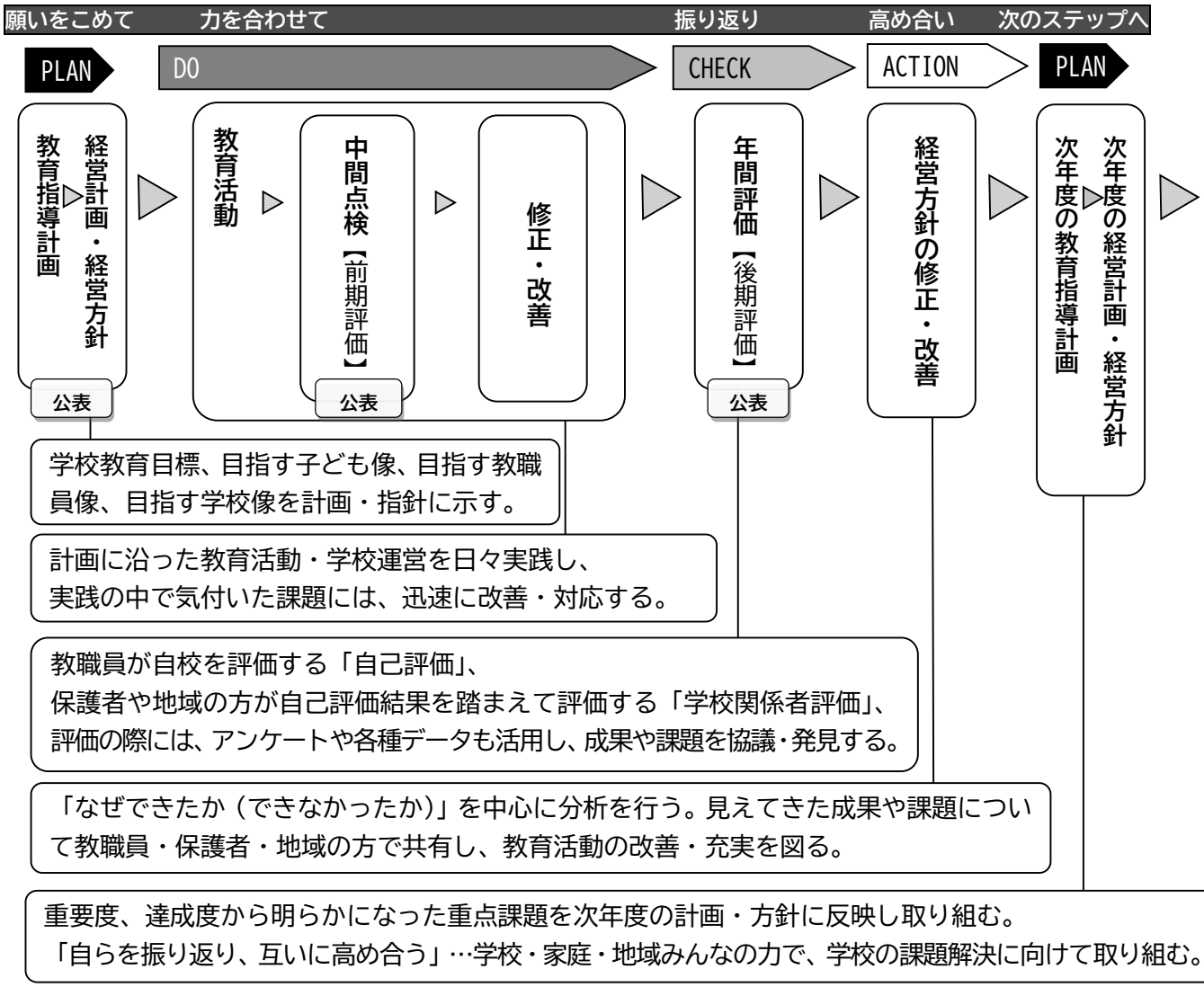


※①アンケートは適時実施。
※②アンケートを踏まえた自己評価は
年２回（中間・年間）実施。
※③自己評価を踏まえた学校関係者評価を実施。
※④教育委員会へは年２回報告書を提出。
※⑤抽出校を対象とした第三者評価
（数校を対象に実施）。
※⑥京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価
に関する条例に基づく報告。

※「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」より

参考１－３

≪PDCA サイクルに基づく学校評価の流れ≫

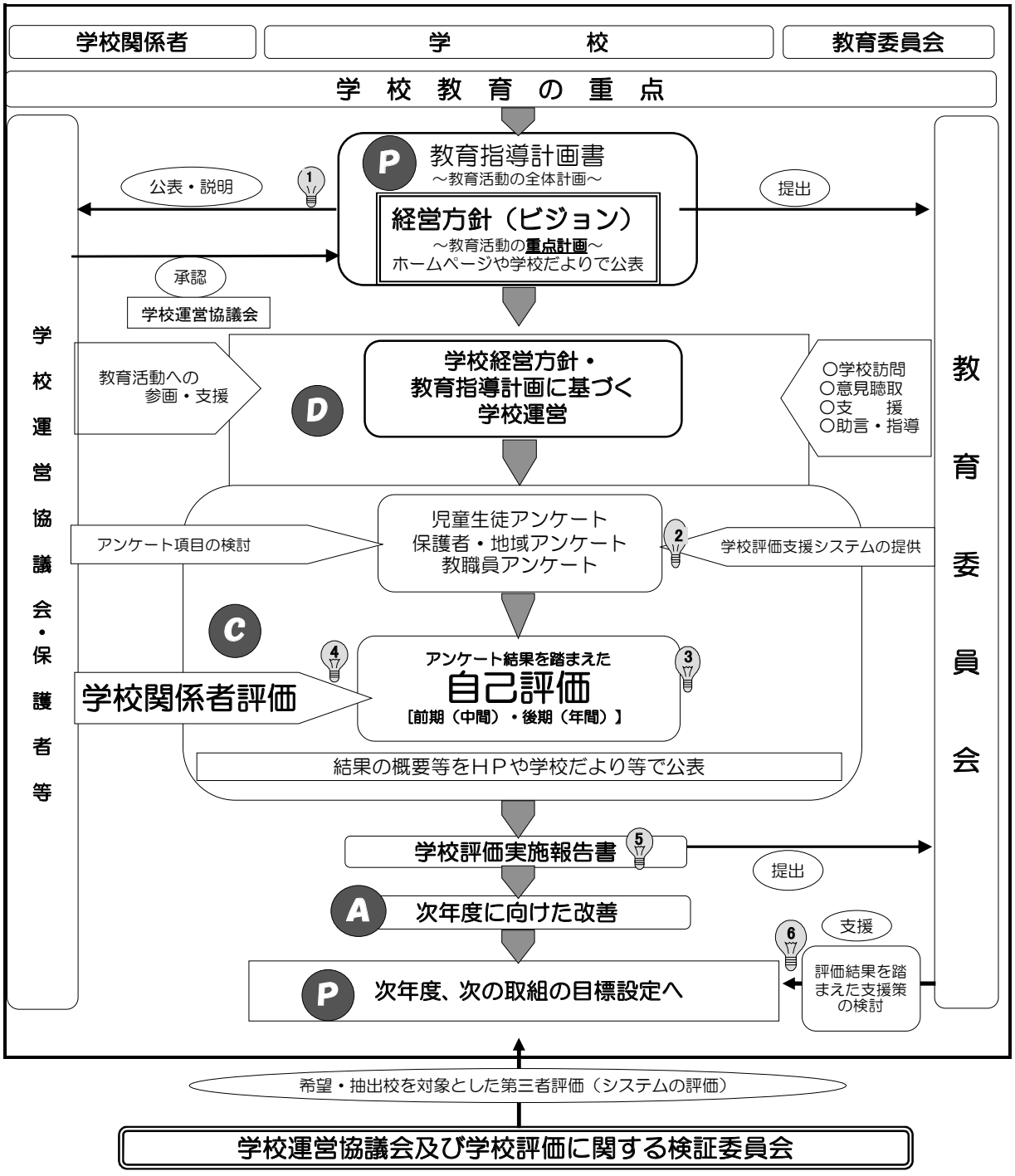


※「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」より

参考１－４

学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

1　学校経営方針、学校評価年間計画、評価項目の策定、公表
2　学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
3　学校組織としての自己評価を充実させ、評価結果及び改善策を提示
4　自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と、課題解決に向けた改善策や支援策の協議
5　評価結果の教育委員会への報告（年間２回）
6　教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用し、助言する

※「京都市学校評価ガイドライン（第３版）」より

２　「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価

（１）「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」の概要

本市では、学校評価の各学校での実施状況を含め、学校教育活動の充実に資する学校評価システムの客観性･信頼性を第三者的な視点から検証するために、学識経験者等で構成される「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下、「検証委員会」という。）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第１１条第２項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第１３８条の４第３項の規定に基づく附属機関である。

【令和７年度検証委員会委員】（敬称略・役職等は令和７年度のもの）

◎小松　郁夫	国立教育政策研究所　名誉所員
○天笠　茂	千葉大学　名誉教授
梶谷　良野	株式会社島津製作所　常務執行役員
風岡　治	愛知教育大学　教授
菊田　めぐみ	PTA 代表（京都市小学校 PTA 連絡協議会庶務）
鈴木　美和	公募委員
西濵　衣織	公募委員

※ ◎は委員長、○は副委員長。委員長・副委員長を除き、五十音順に記載。

（２）令和７年度　検証委員会の実施状況

令和７年１０月１４日（火）、１２月１９日（金）に会議を開催。また、各学校における学校評価の実施に関する第三者評価として、鳳徳小学校（北区）、洛西中学校（西京区）の２校を訪問。

＜委員の主な発言＞

学校運営協議会との協働

○子どもへの支援、教育課題の対応には、数年で人事異動する教職員だけの努力では解決が難しい問題もある。学校でできること、行政や地域と一体となって取り組まないとできないことがあるため、学校は、学校運営協議会をはじめとした地域の人と課題を共有し、ともに課題解決へ取り組んでいくことが重要となる。

○教職員はもとより、学校内だけでなく、学校運営協議会もチームの一員であること意識し、学校の教育目標や目指す子ども像などについても、学校運営協議会の中で議論し、よりよい学校づくりを目指していただきたい。

○中学校ブロックで共有する取組については、学校同士だけでなく、学校運営協議会などの地域の方も巻き込んで意見交換するとよい。

○多くの地域の方が、学校を良くしようと関心を持って活動されていることはよいと思ったが、何を実現するために活動をしているのか不明瞭だと感じるものもあった。学校と地域で何を目指すか、目的を予め定めたうえで活動されるとより良い活動になる。また、そうすることでおのずとその目的に沿った地域人材を充てることができるのではないか。

学校評価の活用等

○アンケートに関しては、問いの投げ方が大切である。本当の課題は何か、しっかり予測して、捉える必要がある。さらに、アンケートの回答は善し悪しだけでなく、課題の深堀りが重要。当事者だけでは難しいこともあるので、AI の活用などの工夫の下、解析と対策をうまくつなげることが肝要である。

○学校評価が学校改善に生かし切れていない場面が見られる。アンケートでは、ワンクエスチョンで終わらずに、なぜそう思うのかといったサブクエスチョンを追加で設けることで、より詳しい分析ができ、学校改善につながるのではないか。

○アンケートについては、「できた」「できていない」だけでなく、なぜ「できなかった」のかを分析して見える化すること、そして保護者と共有することが重要。企業では、アンケートを取ると必ず分析を行い、課題を見つけ改善していく。PDCA を回していくことを意識してほしい。

○学校評価は、保護者に学校の日常で何がどのように行われているのかを見てもらったうえで、評価し PDCA を回していくことが大切である。また、コミュニティスクールの仕組みも積極的に活用しながら、保護者にも目標設定や具体的な手段を計画するところから関わってもらい、自分事として評価に臨んでもらうことが必要。

○学校評価の検証は、先生方の負担にはなるが、先生一人一人に自校の強みや弱みを考えてもらうことは大事なことである。

○学校評価は学校で完結するのではなく、教育委員会の施策、政策とも連動する。教育委員会として、各施策、政策の自己点検を行う中で、学校評価の第三者評価の結果をどう活用するのかという視点も必要。

学校教育の充実等

○ICT と紙をバランスよく効果的に活用した授業が展開されていた。これからの日本の教育はデジタルと紙を融合させた効果的な教育を実践していく段階にある。

○少人数での取組など多様性に対応した教育が実践されている姿が見られた。また、関心事をタブレットで調べたり、それを端緒に友達とコミュニケーションを取るなど、児童がＩＣＴ端末を日常的に活用する姿が見受けられた。

○支援の必要な子どもたちへのサポートとして、より積極的に ICT を活用していくことが重要だと思った。

○児童・生徒の支援においては、小中の教員の連携は欠かせない。中学校の教員は、小学校で習得すべき内容が身についていない子どもの存在を認識すること、また小学校の教員は、そのような状態で中学校に進むと、どうなるかということを理解し、それぞれの役割を果たしていくことが重要である。また、義務教育から高校への接続の観点から、中高連携も大切である。

○様々な背景を抱える生徒が多いなか、そうした生徒に自分たちのよさを感じてもらえるよう、教員が一体となり支援していると感じた。

○保護者が子どもの教育に対して、関心が低いという課題感に関しては、保護者側も何を求められているか分からないことも多いのではないか。学校側が教育の専門機関として、子どもへの具体的なアプローチの方法等について示せば、保護者も子どもへのアプローチがやりやすくなるのではないか。

学校経営

○校長のリーダーシップの下、学校と地域がうまく溶け込み合っていると感じた。また、子どもたちが休み時間に校長室で遊んでいる様子が見られるなど、児童が教職員に心を開いているように見え、何か悩み事等があれば気軽に相談できる関係づくりが構築されているように感じた。

○教員がカリキュラム・マネジメントに自覚的になると、授業の質が上がる。また、学校全体が教育課程を核にしながら、つながることができる。今後は、こうした意識を教員一人一人にまで浸透させていただきたい。

○異なる小学校から進学してくる場合、それぞれの学校の文化の違いのようなものがある。それを中学校がどうリーダーシップを発揮しながらまとめていけるかも、小中一貫教育の課題。

○就学前と中学校卒業後までの連続した育ちを子どもたちには保証できるようにすることが重要だと感じた。

○教育委員会からの支援やそれを受けての学校の対応の妥当性を見つめることが必要。また、学校として、課題の解決・改善にあたり、小中連携の強化、学校運営協議会の一層の活用を進めてもらいたい。

3　学校評価の現状や課題と今後の方向性について

令和８年６月に本市が学校・園を対象に行った各校での令和７年度における学校評価の実施状況に関するアンケート調査を踏まえつつ、本市における学校評価の現状や課題と今後の方向性について、以下のとおり概説する。

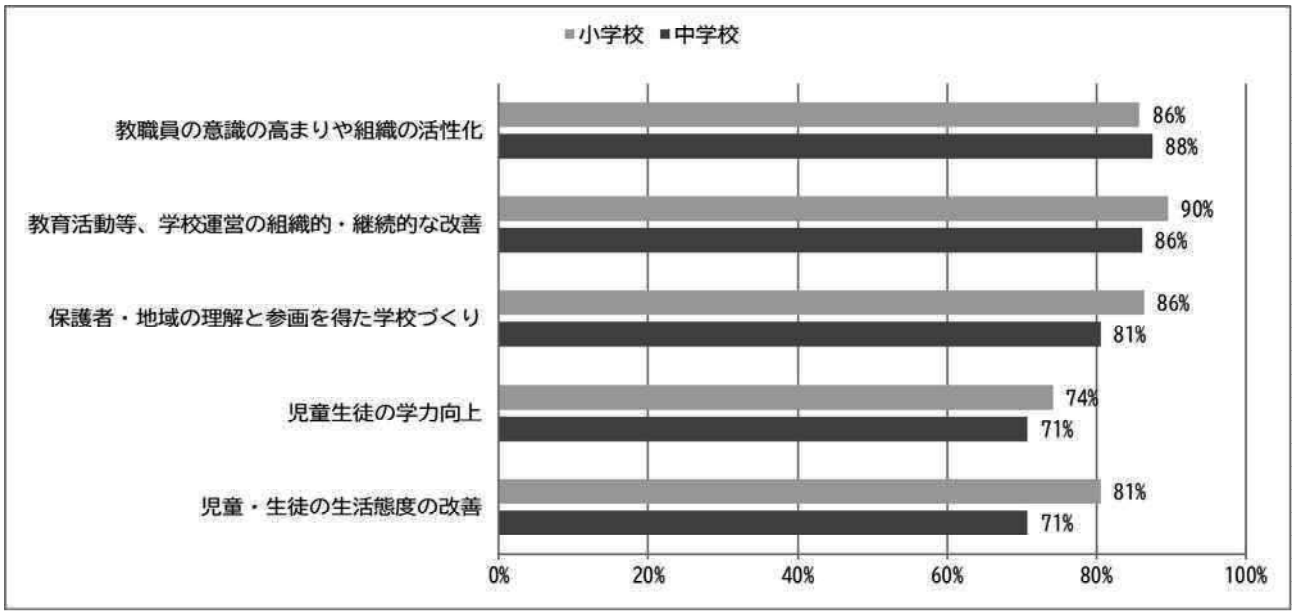
なお、参考２－１～参考２－５は、同調査の各質問項目に該当する旨の回答を行った、小・中学校（義務教育学校を含む）の割合を示したものである。

（１）学校評価の活用による効果について

学校教育目標に対し、自校の教育活動によってどれくらい迫れているか、子どもの姿や指標等から振り返り、達成の度合いや課題を共有することを通じて、教職員の意識の向上や組織の活性化、学校運営の組織的な改善に効果が見られた。さらに、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりが進み、ひいては、児童生徒の学力向上や生活態度の改善にも効果があったとの回答が多くあった。（参考２－１参照）

Ｐ１０に本市の実践事例として掲載する鳳徳小学校では、目指す学校像として「保護者・地域に信頼される学校」を掲げ、評価項目を学校運営協議会の場で、学校の実態を踏まえて協議したり、保護者や地域にも当事者意識を持っていただけるよう関係者への発信を進めてきた。その結果、学校への理解が広がり、学校教育活動の改善、地域の「ひと・もの・こと」を活かした体験学習の推進、学校の取組を支援する地域のボランティアの学校教育活動への参画など、地域ぐるみの教育活動へと繋げている。このように本市では、学校評価を基軸とした PDCA サイクルの中で明らかとなった成果や課題を、教職員だけなく、学校運営協議会をはじめとした家庭･地域等と共有し、市民ぐるみ、地域ぐるみによる魅力ある学校づくりが進められている。

参考２－１学校評価の効果について（学校からの回答）



（２）学校評価を通じた教育活動の改善に向けた課題と今後の方向性について

ア　評価実施に伴う業務負担の軽減

課題としては、アンケートの回収、結果の集計や分析、結果報告書の作成といった学校評価の実施に伴う事務作業への負担感を挙げる学校が多い。（参考２－２参照）

本市では、Web 上でアンケート作成・集約等を容易に行うことのできるツール（Forms）の活用を各学校に推奨しており、小・中学校（義務教育学校含む）の９４％で活用に至ってい

るものの、アンケートの集計や分析等に係る負担感を挙げている学校も少なからずある（小学校：３９％、中学校４４％）。そうした状況を踏まえ、結果分析において生成 AI の活用を実際に行っている学校での取組事例の共有などを行いながら、負担軽減を図っていく。

イ　評価結果の共有及び改善の取組

学校評価を通して判明した学校や児童生徒に係る課題については、多くの学校で教職員に説明・共有されているほか学校運営協議会等でも協議されるなど、地域ぐるみで課題解決に向かう関係性が築かれている。一方で、教職員間での改善策についての話し合いや次年度の教育指導計画等への反映など、具体的な解決に向かう行動が取れているかについては、課題が見られる。こうした状況を踏まえ、学校教育目標と学校評価を一連の動きとして進めることを一層推進できるよう、令和８年度から「教育指導計画書」と「学校評価実施報告書」の様式を一つに統合し、学校教育目標の実現に迫るためのカリキュラム・マネジメントに向けた取組方法の充実を図っている。

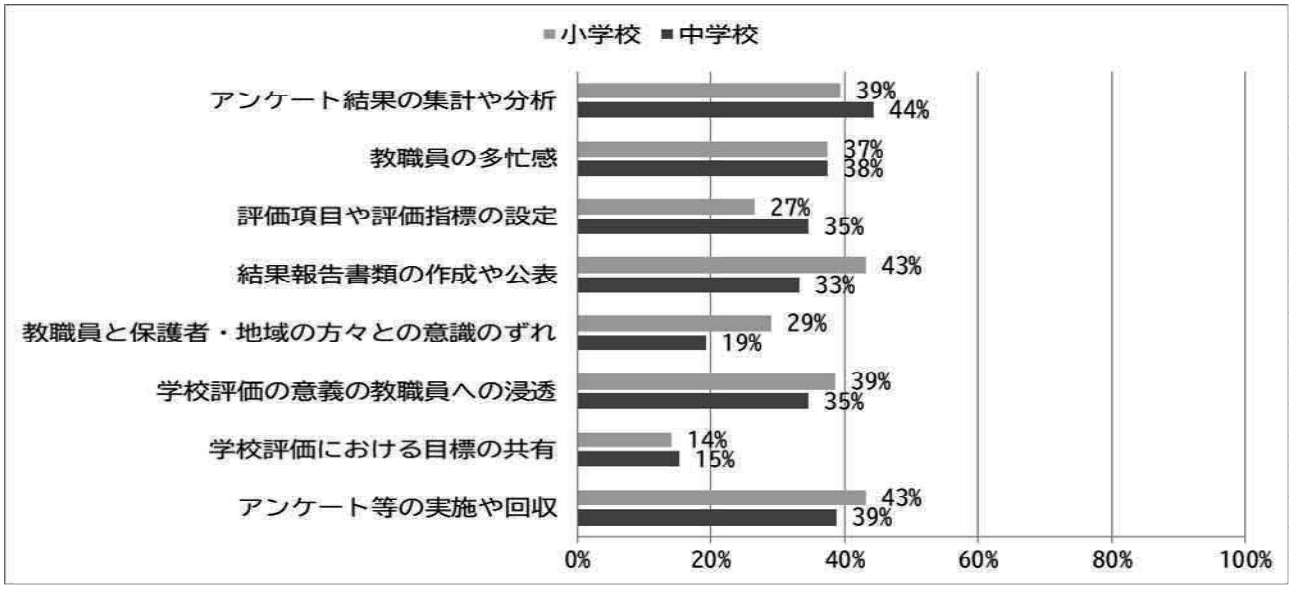
また、学校運営協議会をはじめ、教職員同士だけではない場においても、目標と現状、改善策について話し合うことを通して、外部からの学校運営への興味・関心を高め、保護者や地域住民が学校運営に主体的に参画できる体制づくりを進めることが必要である。（参考２－３参照）

学校評価は、学校や地域の状況に沿った評価を実施し、課題を明らかにするだけでなく、教職員や学校運営協議会の理事をはじめ、保護者や地域の方々と広く共有・熟議し、具体的な改善に向かって協働するなど、課題の改善に向けた PDCA サイクルを回していくことが肝要であり、その繰り返しが学校教育の継続的な質の向上につながる。こうした考え方や具体的な取組手法の浸透を図るため、指導主事による指導助言や教職員への積極的な周知を行っていく。

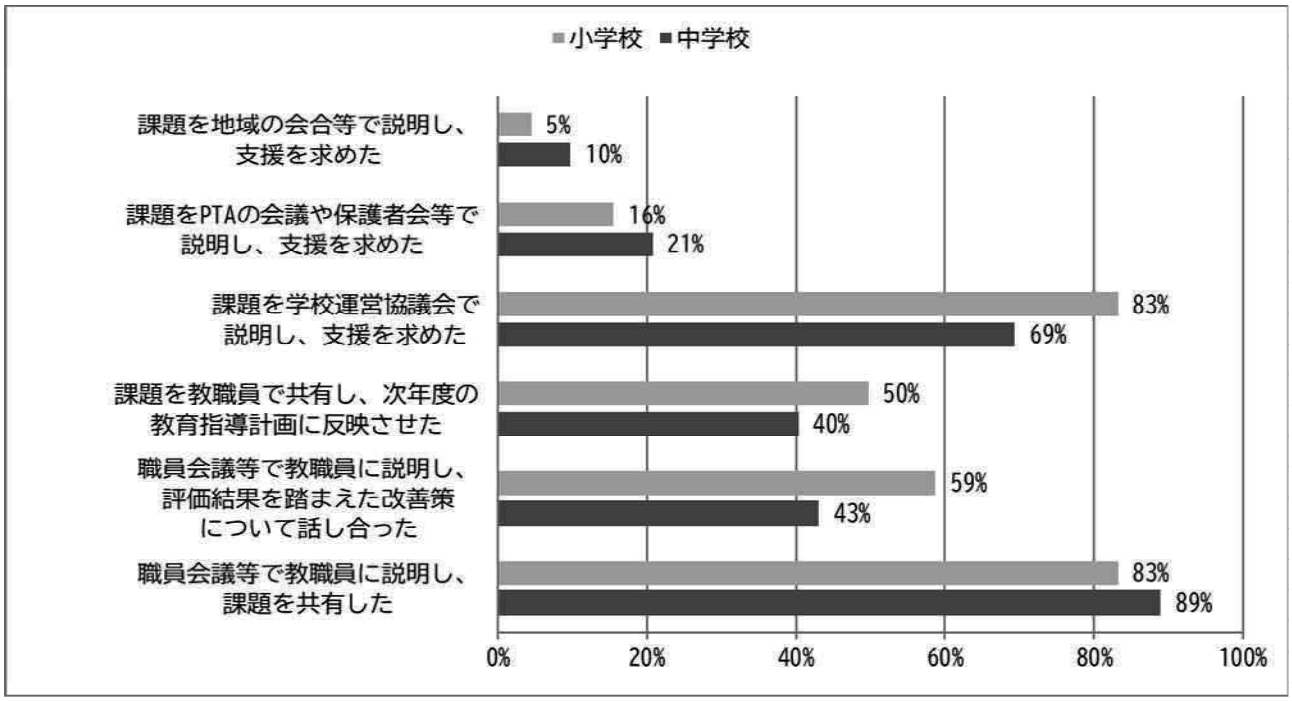
ウ　教育活動の充実等について

令和７年度の検証委員会では、主体的・対話的で深い学びや様々な背景を持つ子ども（貧困や不登校等）の支援をはじめ、学校を取り巻く環境が変化する中、学校と地域を繋ぐ、地域学校協働推進員など、学校運営協議会の理解や協力を得て、地域の資源を活用しながら、学校教育の充実を図りつつ、働き方改革の推進にも取り組んでいる学校を訪問した。社会構造が急激に変化し、予測困難とされる時代の中、子どもたちが、社会の中で「自らの人生を舵取りできる力」を身に付けていくためには、学校内だけではなく、保護者や地域等の多様な人的・物的資源等を活用しながら、教育活動を行うことが効果的である。次年度の検証委員会においても、こうした観点も踏まえ、各校の取組が一層充実したものとなるよう検証を進めていく。

参考２－２学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点（学校からの回答）



参考２－３学校評価を通して判明した「学校や生徒たちの課題」に対して、学校としてどのように対応したか。（学校からの回答）



（３）公表の方法や内容の工夫について

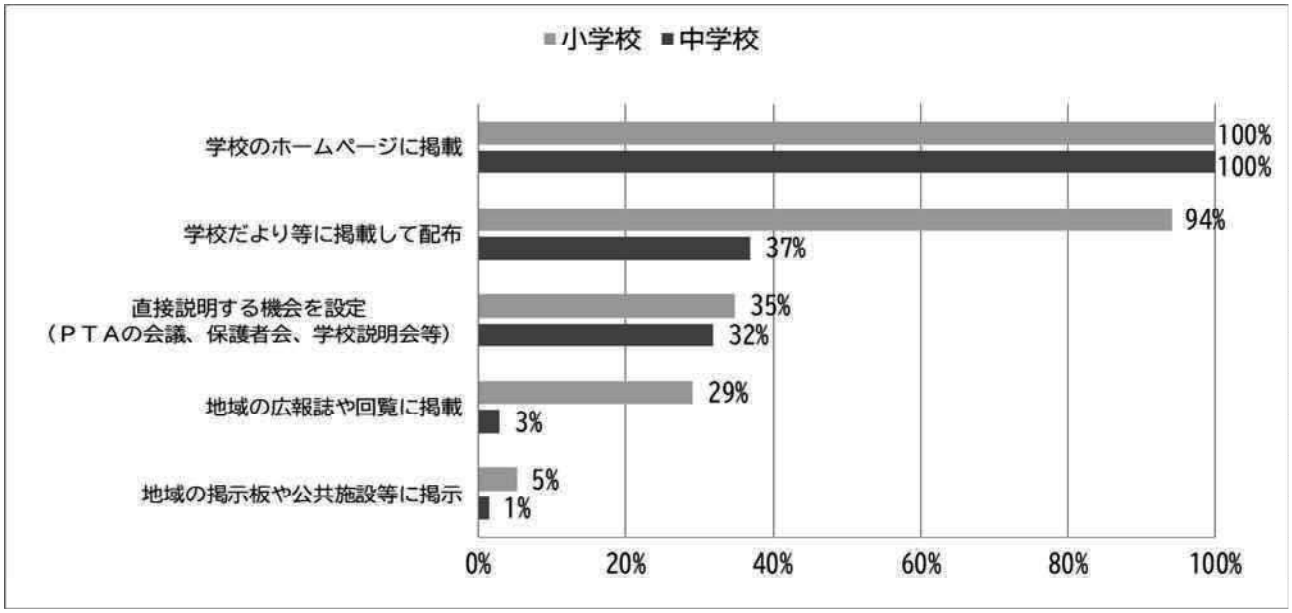
保護者や地域の方と協働して学校教育活動を推進するには、効果的な情報発信が欠かせない。

学校評価の結果については、全校でのホームページへの掲載や学校だより等でのお知らせなど、学校の実態を踏まえながら複数の方法を活用しているほか（参考２－４参照）、児童生徒・保護者・教職員の回答の比較や学校での取組と関連付けた考察の分析、イラスト化やグラフ化などの視覚に訴えるなど、分かりやすいものとなるよう、各校において工夫が施されている。

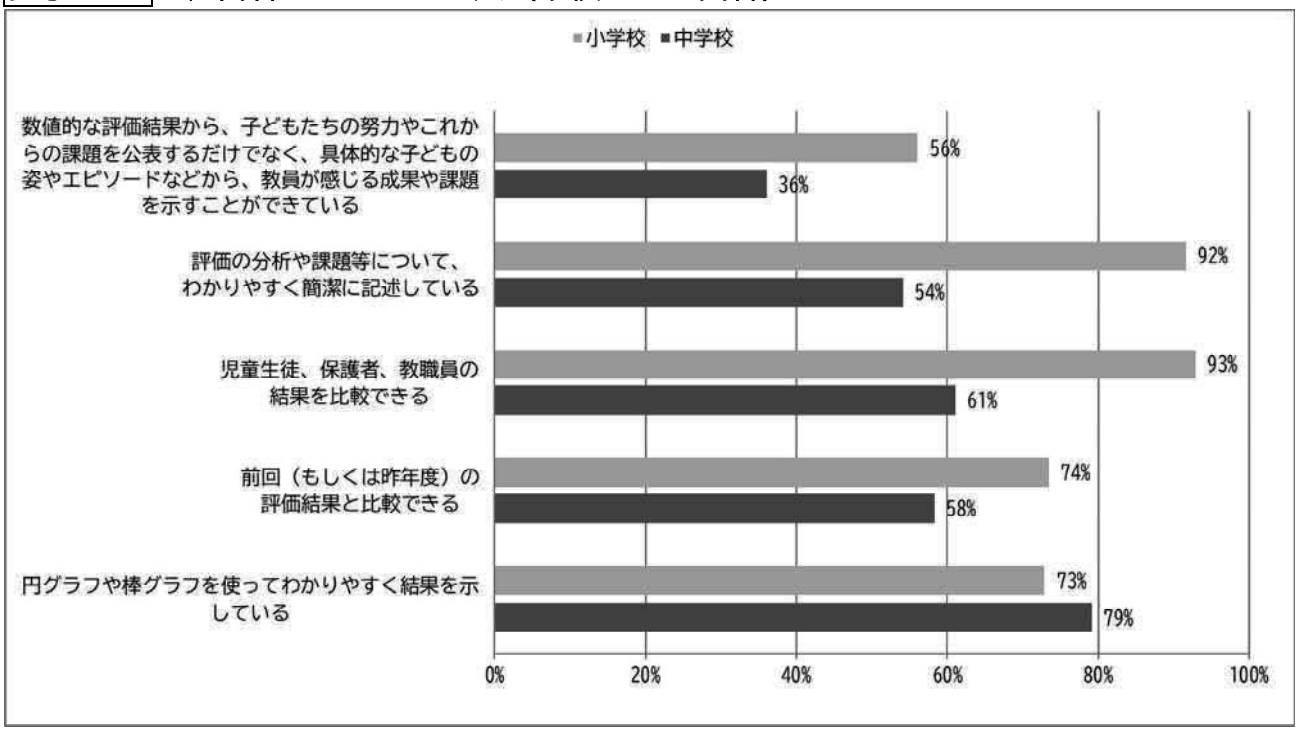
一方で、数値的な評価結果だけで、子どもたちの努力や課題を公表するだけでなく、日頃教職員が見取っている具体的な子どもの姿やエピソードなどから、成果や課題を示せているかという点については、まだ取組の工夫の余地があると考えられる。（参考２－５参照）

また、地域ぐるみで魅力ある学校づくりを進めるうえでは、学校の考え、思いはもとより、学校評価をもとにした学校運営協議会における議論の内容等についても地域の方へ発信・共有することが、不可欠である。優れた情報発信の方法だけでなく、どのような内容とすることがより良い学校づくりへと繋がるのかについて、事例の共有や検証委員会等での協議を深め、更なる改善を図っていく。

参考２－４公表方法についての工夫（学校からの回答）



参考２－５公表内容についての工夫（学校からの回答）



＜参　考＞

京都市立鳳徳小学校における実践事例

〇所在地　京都市北区紫野上鳥田町３０
〇児童数　２６０名（令和７年５月１日現在）
〇創　設　１９３１年（昭和６年）開校
〇中学校ブロック
　旭丘中学校、待鳳小学校、鳳徳小学校、鷹峯小学校

※　「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

令和7年度　京都市立鳳徳小学校　教育方針

●学校教育目標

互いを認め合い　自分の考えをもち　表現する子の育成

●育てたい資質・能力

・コラボレーション力

（互いを認め合い、協働的に取り組む）

・自己指導能力

（自分の考えをもち、よりよく判断する）

<めざす学校像>

・元気と笑顔があふれる楽しい学校
・安心・安全に学ぶことができる学校
・保護者・地域に信頼される学校

<めざす教職員像>

・子どもの学びを支え、伴走する教職員
・人間関係を大切にし、笑顔であいさつする教職員
・自己研鑽に励み、指導力の向上を目指す教職員

<めざす子ども像>

ほんきでがんばる子　うれしさいっぱいの子　ともだちをたいせつにする子　くじけずすすむ子

知・徳・体を一体的に育む

知　確かな学力

・学びの成果を実感できる授業
・基礎的・基本的な知識・技能の習得
・探究活動と体験活動の充実
・支援の必要な子どもへの適切な支援

・英語力の育成
・GIGA スクール構想
・朝の読書タイム
・伝統文化等の体験活動

徳　豊かな心

・支え合い高め合う集団作りの推進
・安心できる学校風土の醸成
・規範意識の育成
・多様性を理解する姿勢の涵養

・児童会・たてわり活動の推進
・道徳教育の充実
・地域との交流活動
・幼保小・小小・小中連携

体　健やかな体

・体力の向上（ジャンプアップの取組）
・安全指導の充実
・食に関する指導

・保健教育の充実
・薬物乱用防止教育

連　携・協　働　　保護者・地域・学校運営協議会・幼稚園・保育園・中学校・関係機関など

令和7年度　　# 学校経営方針

京都市立鳳徳小学校

学校教育目標

互いを認め合い　自分の考えをもち　表現できる子の育成

【育成を目指す　資質・能力】

○コラボレーション力

・人と新たな関係を構築し、良好な関係をつくる

・相手意識・目的意識をもって意見や気持ちを伝え合う

・力を合わせて協働的に取り組む

○自己指導能力

・場に応じてどのような行動が適切であるか自分で考え、決定し、実行する

【目指す子ども像】

ほ・・・ほんきでがんばる子
う・・・うれしさいっぱいの子
と・・・ともだちをたいせつにする子
く・・・くじけずすすむ子

【目指す学校像】

○元気と笑顔があふれる学校
○毎日が楽しい学校
○安心・安全に学ぶことができる学校
○保護者・地域に信頼される学校

【目指す教職員像】

○愛情をもち、子どもと向き合う教職員

・子どものよいところを伸ばす視点　「よいところ」を見つける意識

・「笑顔」「子どもに寄り添う」「やさしい声かけ」「温かい眼差し」

・豊かな感性、鋭い人権感覚、温かな人間性

○子どもが自分の力を発揮できる場づくりに努める教職員

・子ども一人一人を見つめ、子どものよさや可能性を引き出す

・「学級担任」と「学年担任」としての意識をもち、学年体制で取り組む

・全校的な組織体制で、子どもや家庭に対する支援、取組を推進する

〇人間関係を大切にし、笑顔であいさつできる教職員

・学年・職種の垣根を越えた、全校体制で教育活動を行う

・どうすればよりよくなるか、できるかの視点で

・子どもたちの良き手本として

〇自己研鑽に励み、指導力の向上を目指す教職員

・学校教育目標・目指す子ども像の実現、資質能力の育成に向け、日々の実践に努める

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。←学力向上への手段

・研修会や研究会活動に参加することで、指導力等の向上を図る

【「生きる力」を育む取組】※学校教育の重点参照

知「確かな学力」の育成

① 学びの成果を実感できる授業

◎学習規律の徹底（学びの約束やルール）

◎「わかる」「できる」喜び、学び合う楽しさを実感できる授業

・資質・能力を意識した授業の推進

・発達段階に応じた「見方・考え方」の習得

・家庭学習の充実・自学自習の習慣化

・小中一貫学習支援プログラムの活用分析・考察

② 基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実

◎学習課題（めあて・目標）に応じた「まとめ」と「ふりかえり」の徹底

・実感を伴った理解となるような、調べ学習、観察・実験レポート作成等の活動

◎ICT 機器等を日常的・積極的・効果的に活用した学習活動の充実

＜KYOTO×教育 DX ビジョン＞

・読書環境の充実（読書力・読解力の向上）

③ 探究活動と体験活動の充実

◎自ら課題や疑問点を設定、調べ、解決する過程を大切にした探究活動の推進

・体験活動の充実（学びに向かう意欲づけ）

④ 実践的英語力の育成

・コミュニケーションを図る素地・基盤となる資質・能力の育成を目指す（ALT の活用）

⑤ 支援の必要な子どもの学力向上

◎「個別の指導計画」「個に応じた指導計画」の活用と特性に応じた細やかな支援

（共通理解・支援員の配置）

・個別に有効な指導法の工夫、ICT 活用による支援

徳「豊かな心」の育成

①支え合い高め合う集団作りの推進と絆づくり

・よさを見つけ合う、協力し合う、指摘し合う「絆」づくり

◎『生徒指導の4つの視点』を意識した指導・取組・・・自己指導能力の育成

「自己決定の場を与える」・「自己存在感を与える」・「共感的な人間関係を育成する」・「安心・安全な風土の醸成」

⇒すべての教育活動の場で意識的に取り組む

（学習、特別活動、学校行事、学校生活、委員会活動　etc.）

◎子どもが「楽しい」「安心できる」と実感できる心の居場所づくり

・児童会活動・委員会活動の活性化　　主体的・自発的な活動を重視

・たてわり活動の充実（自己有用感、高学年への憧れ）

・自分や他者の大切さを認め、人権意識を高める取組の工夫（「なかまの日」の充実）

・組織的ないじめ等の**「早期発見」、「見逃しのない観察」、「手遅れのない対応」、「心の通った指導」**

・SC・SSWとの連携

②豊かな感性・情操を育む教育の充実

・茶道教室、華道教室等の実施（生活科・文化的行事）

・本物の芸術に触れる（オーケストラ等）

・地域とのふれあい活動

・動植物に親しみ、育てるなどの体験を通して命の尊さを感じさせる（飼育・栽培活動）

③規範意識の育成

◎学習規律の徹底、基本的生活習慣の確立→自ら行動できる取組の推進

◎子どもの「規範意識」を育てる⇒大人がいないところでも守ることができる子

・薬物乱用防止教室、非行防止教室の実施

・「社会では許されない行動」は「学校でも許されない」という姿勢と指導

・情報モラル教育の充実、スマホやゲーム等の指導

④道徳教育の充実

・自己の生き方についての考えを確立する活動を意図的・計画的に実施する

・様々な機会を通して家庭との共通理解、連携を深める（参観、HP、学校だより等）

・道徳科と学校行事・各教科との関連を図り、道徳的価値の理解を深める指導の充実を図る（いじめ、情報モラル、「SDGs」に関連する環境、平和、人権等の課題）

⑤多様性を理解する姿勢を育む

◎障害についての理解と認識を深める（育成学級との交流・共同学習）

・手話や点字、ユニバーサルデザイン等に関する学習の実施

・外国人教育の推進（文化・伝統の多様性を認め、尊重する）

・文化・宗教等への理解と受容性の幅を広げる環境づくり

・LGBTQへの理解を深める

体「健やかな体」の育成

① 体力の向上

◎子どもが楽しみながら運動に触れる機会を設ける

（全校縄跳び・ジャンプアッププロジェクト）

・安全管理・健康管理の徹底

②保健教育の充実

・望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てる（早寝・早起き・朝ごはん）

・様々な感染症や病気、けがに対しての知識理解とその予防の実践的態度を育む

・性に関する基礎的・基本的事項を正しく理解させる→人権教育

③飲酒・喫煙・薬物に関する指導

・保健・特別活動等での指導や薬物乱用防止教室で正しい知識を身に付けさせる

④安全指導の充実（子どもの命を守りきる学校）

・「けが」「事故」の予測と危険を回避するための知識と判断力を身に付けさせる

◎日常の安全指導の徹底（校内での過ごし方・廊下歩行・遊び方・遊び場所・遊具の使い方）

・交通安全指導の充実、

（安全な登下校、自転車の安全利用、ヘルメットの着用も含めた交通ルールの順守）

・学校安全総合支援事業（学校における緊急時の対応訓練）

・避難訓練、引き渡し訓練の PDCA サイクルと災害への備え

・見守り隊、北警察スクールサポーター、PTAとの連携（地域とのつながり）

※安心・安全に過ごすことのできる校内の環境整備

⑤食に関する指導

・アレルギー対応研修の充実と保護者・教職員の連携強化

・食につながる人々や食物への感謝の心を育てる

■重点的な取組

★人権尊重の精神と人権感覚の育成

・子どもの人権を徹底的に尊重する

・子どもの人権意識を高め、個を大切にしたよりよい集団の育成を図る

・集団の中で個性を伸ばし、達成感を味わわせる特別活動の充実を図る

★不登校児童への対策・対応

・校内支援体制の確立（SC、SSW、総合育成支援員との連携）

・ケース会議、不登校対策委員会での情報共有

・関係諸機関との連携（児相・生徒指導課・ふれあいの杜）

★総合育成支援教育の推進

・育成学級、通級指導教室、在籍・通級児童についての理解と認め合う集団づくり

・普通学級に在籍する発達障害のある子どもに対する指導の充実

★教育相談の充実

・困りを抱えた子ども・保護者への早期対応

・ケース会議の充実とSC、SSWとの連携

・全校体制での組織的な対応

★体験活動の充実（各教科・総合的な学習・宿泊行事等）

・地域をはじめ、様々な人々との交流を通して、地域や人のよさに気づかせる

・新しい発見や出会いを通して感動する心を育む

・体験したことをもとに、自分にできること、やろうと思うことを実践する力を育てる。

★指導体制・取組の推進

・協力指導体制の推進 （学習支援・専科学習・教科担任制等）

・帯時間の活用・・・全クラスで1年間やりきる（毎日の積み重ね×6 年間）

・学校教育目標、目指す子ども像と行事・取組の連動

（ねらいの明確化とふりかえり・評価）

・学校教育目標、子ども像を提案文書に明記 ⇒ 教職員のベクトル共有・意識付け

★環境整備

・どの子どもにとっても過ごしやすい教室環境の整備（支援の必要な児童への配慮）

ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくり（教室前面掲示の簡素化など）

教職員・子どもが整理整頓を常に心がけることができる工夫

・安心・安全で過ごしやすい学校

言語環境、人的環境（きれいな言葉、きれいな心・・・）

自分と他者とのつながり意識をもつ（靴・スリッパ、あとしまつ・・・）

廊下、窓側の棚には物を置かない（事故防止・リスクマネジメント）

職員室の整理整頓、快適で使いやすく

★学校、家庭、地域のそれぞれの役割を明確にした連携の強化

・学校だより・学校ホームページの充実→ 子どもの様子・行事の様子を発信

・授業参観・学級懇談会・家庭教育学級

・学校運営協議会の取組の推進（社会に開かれた教育課程）

・学校評価システムの活用

・PTA活動の活性化に向けた支援

★「働き方改革」の推進

・教育の質を高める

・元気な（心身ともに健康な）教職員が元気な子を育てる

・見通しをもち、計画的、効果的、効率的な業務（人と時間のマネジメント）

★校種間連携・接続の推進

① 旭丘中学校ブロック（HATT）における小中一貫教育の取組の推進

・学力向上・生徒指導を中心とした連携

9年間を見通した学習・生徒指導の推進と学びの環境づくり

・児童・生徒の交流（児童会・生徒会交流、中学校体験等）

② 保育園・幼稚園との連携

・教育活動における連携

幼保小交流 （生活科、総合的な学習の時間等）

・就学支援シートの活用

令和７年度　学校評価について

鳳徳小学校

１　評価のねらい

・『学校教育目標』を意識し、課題改善に徹底して取り組むことで、指導者の力量を向上させる。
・児童の実態を意識し、年間を通して、目指す子ども像をゴールにした授業デザインができるようにする。
・学校と家庭、地域が一体となり、鳳徳小学校の児童をあたたかく見守り、育てるための手がかりとする。

２　重点評価項目

（１）「確かな学力」の育成に向けて

重点目標「相手意識・目的意識をもって協働的に取り組む子の育成」

・学びの成果を実感できる授業を行う。
・基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実を図る。
・探究活動と体験活動の充実を図る。
・実践的英語力を育成する。
・支援の必要な子どもへの学力向上についての支援を工夫する。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標自他を大切にし、自己有用感・肯定感を高める取組の推進

・支え合い高め合う集団作りの推進と絆づくりをする。
・豊かな感性・情操を育む教育の充実をはかる。
・児童の規範意識を育成する。
・道徳教育の充実をはかる。
・多様性を理解する姿勢を育む。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標家庭・学校・地域が連携した子どもの命を守りきる取組の充実

・体力向上のための取組を行う。
・保健教育の充実を図る。
・飲酒・喫煙・薬物に関する指導を行う。
・安全指導の徹底を行う。
・食に関する指導を充実する。

（４）学校独自の取組

重点目標

・「HATT スタンダード」（旭丘中学校ブロック４校共通の目指す子ども像）に基づき、公開授業や主任会を実施し、目指す子ども像を実現するための具体的な取組を進める。
・育てたい資質・能力を「コラボレーション力」「自己指導能力」とし、児童間だけでなく、さまざまな人と協働して「生きる力」を育む。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標教職員一人一人が自らの働き方や資質・指導力向上に向けた意識改革を行う。

・地域と連携して行う取組について、教育課程外の活動については、教育課程内での実施を図るなど、教職員の参加について見直しを行う。

・カリキュラム・マネジメントの視点をもち、各教科の学習内容の繋がりを明確にし、学習活動や学校行事を行っていくことができるよう、精選を図る。
・教職員の業務見直しと環境づくり
・時間外勤務時間短縮の意識化
・研修や会議の精選と時間の短縮（Teams を活用した情報共有・情報の一元化等）
・ICT の有効活用や校務支援員の活用、校務支援システムの利用などによる校務の効率化

３　評価項目の検討方法

学校教育目標の達成に向け、教育活動と学校運営の改善に繋げられるよう、学校教育に関する項目だけでなく、地域との連携や家庭での子どもの様子や学習についても分析できるような評価項目となるよう、学校運営協議会の場で協議を行うなどし、検討している。

４　評価手法

・学校評価に係る各指標を総合的に分析した年２回のアンケート調査（三者比較、経年変化比較）
・学力調査（全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラム、プレジョイントプログラム）の結果等
・各分掌主任による状況把握及び分析結果
・学校運営協議会の学校評価への関わり方
・教職員出退勤管理システムにより把握した教職員の時間外勤務状況や年休取得率

５　自己評価

（１）「確かな学力」の育成に向けて

・京都市小中一貫学習支援プログラム（ジョイントプログラム・プレジョイントプログラム）の結果は全市の平均を上回っていた。児童のアンケート「あきらめず最後まで学習している」の項目で９６％の児童が「よくできている」「できている」と肯定的に回答しており、学習に対して前向きな様子がわかる。引き続き、相手意識の目的意思を持って協働的に取り組むなど、「コラボレーション力」を意識し、自分の思いや考えを相手と伝え合える授業、自分なりのめあてを持ち、主体的に取り組める授業を進め、子どもたちも学ぶ意欲を伸ばせるようにしていきたい。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

・どの評価項目でも、前期より肯定的な意見が増えていた。特に「楽しく学校にきている」「友だちと仲良くしている」の項目では、９６％以上の児童が肯定的な意見となっている。児童会による「たてわり活動」の充実で学年を超えて子どもたちが助け合い、よいお手本を見せる姿があった。また、遊び道具の使い方などについて規範意識が高まっている様子も見られた。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

・子どものアンケート結果から、概ね望ましい生活習慣を身につけていることが分かった。また、体力向上のための「ジャンプアッププロジェクト」の活動が定着してきており、子どもたちの体力が向上してきているが、体力テストの結果から「柔軟性」「敏捷性」「筋パワー」に課題があるため、引き続き、運動委員会を中心とした活動を行う必要がある。
・地域の見守り隊や交通安全協会の方々とコラボレーションしたあいさつ運動や交通安全教室を通して、地域全体で子どもの命を守り切る意識が高まっている。

（４）学校独自の取組

・小中一貫教育の取組として、児童の実態や不登校の状況、各校の行事予定の交流など情報交換がしっかりとできた。中学校ブロックの教務主任・研究主任・生徒指導主任が年に３回交流することで、ブロック内で情報共有や相談をしながら取組を進めたり、互いの学校のよいところを取り入れたりすることができた。

・「コラボレーション力」については、校内研究を中心に、教員同士で授業を見合い、意見交換することで、よりよい授業となるよう改善を図った。「自己指導能力」については、授業や学校生活全体で、子どもたち「自ら考えをもつこと」や「自ら決定する機会」を大切にして取組を行った。

（５）教職員の働き方改革について

・エコデーを設定したり、午後の授業時間をカットしたりして、退勤時間が早くなった教職員もいるが、個人差があるので、学校全体としてはあまり変わりがない。

・適正な授業時数で履修するために、時間割表を工夫した。行事を意識した単元の進行やカリキュラム・マネジメント、授業の質の向上を十分に行う必要がある。

６　学校関係者評価

（１）「確かな学力」の育成に向けて

・生活科や総合的な学習の時間等でゲストティーチャーとして協力できる人材は大勢いる。これからも関わっていきたい。

・子どもたちの社会性を育てたい。地域とのつながりは、鳳徳の強みである。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

・地域の活動に参加することで、保護者同士のつながりも増える。学校を拠点としてもっと地域の活性化を活発に行っていきたい。

・子どもたちは挨拶がよくできていて嬉しい。これからも地域の中で挨拶を続けたい。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

・学校運営協議会による地域の活動では、交通安全教室などの安全に関する取組が十分にできている。

・見守り隊のメンバーが減り、見守り隊一人一人の負担が大きくなっている。年度末の学校だよりで見守り隊を募集し、地域全体で見守るという意識を持ってもらいたい。

（４）学校独自の取組

・中学ブロックの中で小学校によって子どもの様子が少しずつ違うが、お互いが認め合い仲良く過ごせるようにしていけるとよい。

（５）教職員の働き方改革について

・教職員の Teams 活用については個人差があり、情報共有のためにセンターサーバー、電子メール、様々なツールが使われている状況である。問題行動メモや生徒指導に関わる記録などを一元化し、教職員の情報共有がスムーズになるように工夫を続けている。

７　ICT 化の推進や働き方改革の推進、学校運営等、社会変容に応じた取組内容
（学校評価の実施に際して）

・保護者連絡ツールを活用することで、時間割や学校行事の案内などが確実に保護者に届くようになってよかった。学校評価の自由記述欄にも保護者から肯定的な意見が多く見受けられた。

８　総括・次年度に向けた課題等

・子どもたちは大変真面目に学習に取り組んでおり、様々な教育活動において成長する姿を見ることができた。今年度は児童が自分の考えや思いを表現する力を身に着けるために研究を重ね、授業改善に取り組んだ。授業中の発表だけでなくノートや GIGA 端末などを活用し、自分なりの表現方法を身に着けられるようにしていきたい。

・目指す学校像の「毎日が楽しい学校」という項目については、担任を中心に教職員が一丸となり、日々の学習、児童会活動、学校行事などを通じて、子どもたちが活躍し、楽しいと思える学校づくりに務めてきた。不登校児童への対応としては、一人一人の状況に寄り添い、「今」必要と思われる支援を担任・養護教諭・その他教職員が共有できるよう、「不登校対策委員会」を適宜開くようにした。今後も全教職員で子どもを見守っていきたい。

・学校評価アンケートは、概ね良好な結果であった。どちらかというと、児童は自己肯定感は高いが、保護者は「もっとがんばってほしい」と考えているように感じられる。
保護者の声にも耳を傾けながら、保護者や地域にも当事者意識をもっていただくことで、子どもたちを学校・保護者・地域一体で、協働・育成していく意識を高めていきたい。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

１　既に改善した点

・学校評価結果報告の改善

従来はアンケート結果を元に、「できている」「できていない」といった評価が、中心となる報告であったが、委員からの「『できていないこと』について要因解析を行い、そこから見える課題と対策をわかりやすく保護者や地域の方へ開示することで、さらなる改善に向けて理解と協力が得られるのでないか」という意見を受け、後期の学校評価結果では、「できていないこと」を深掘りし、そこから必要と考えられる具体的な改善策を併記して公表した。

・学校全体が学びの場となる環境づくり

「教室だけでなく学校全体が学びの場として活用できないか」という意見を受け、廊下や空き教室等の有効活用について再検討した。廊下の掲示板に子どもたちの作品や、子どもが教科学習や委員会活動等で他の人に伝えたい内容を掲示するなど、学校全体を学習の場として捉える意識を教職員で共有した。

２　今後改善する点

・学習者主体の授業づくりのさらなる推進

授業では子どもの意欲的な姿が多く見られた一方、高学年では「小規模な話し合いではなく、全体での学習が主となっており、特別な支援を要する児童への学習面の支援が難しいのでは」との指摘があった。今後は、小規模での対話活動の充実、ICT を活用した個別最適化、思考を促す発問の工夫により、協働的な学びの場面を増やす。

・特別な支援を要する児童への学習支援の強化

訪問時の指摘で、「発達障害で困りを抱えている子どもへの個別の支援や、その周囲の子どもへの支援が見えにくかった」という意見を受け、校内委員会と連携を図り、個別の学習支援計画等に基づき、学校全体（チーム）として共通の方針づくりを進めるなど、適切な支援体制を明確化する。

・地域学校協働活動推進員の役割の明確化

新設された地域学校協働推進員の役割について、「活動が目指す姿や学校運営にどのような効果を期待するのかについて、もう少し具体化されるとよい」という意見を受け、地域とのネットワークの構築・強化だけでなく、推進員に関わってもらうことでどういった効果が見込めるのか、各取組の整理や、校務分掌との連携を明確にするなど、組織として機能するよう改善を図る。

・学校評価アンケート項目の改善

「学校教育目標の達成を診断・評価するための学校評価であり、その過程に保護者アンケートがあることを確認してほしい。学校評価が保護者アンケートにとどまらないことを望む。」という意見を受け、今後、「学校教育目標を達成するための教育課程となっているか」を意識した学校評価になるよう、教職員の意識改善と、アンケート項目の改善を図る。保護者アンケートについては、自分も学校運営に携わっていると考えてもらいやすいように『〇〇できるよう働きかけている』など、保護者が自分の関わりを振り返れる文言に改善していく。

（別添様式３）

令和７年度　学校評価年間計画　　鳳徳小学校

学校評価のねらい

「めざす子ども像」の実現に向けて、学校運営・教員の指導力向上（授業改善）・基礎基本の学力定着・学校安全・地域ぐるみの教育を推進するために、学校・家庭・地域の三者が連携・協力しながら学校改善の取り組みを進める。

		評価の検討と実施	学校運営協議会	公表の時期と方法
	4	教育指導計画の作成		学校だより発行 ＨＰに教育方針・学校評価年間計画を公表
	5	学校評価委員会開催 前期評価項目の検討	第１回学校運営協議会 学校教育方針の説明と承認	
	6	日曜参観保護者アンケート	学校評価委員会で項目等の検討	
	7	保護者アンケートの実施 児童アンケートの実施 自己評価の実施		
	8	評価結果の分析・結果の共有 後期の評価項目の検討		
中間評価	9			
中間評価	10		第２回開催 学校運営協議会による評価の実施（学校関係者評価）	学校だより・ＨＰでアンケート結果・改善策を公表
	11			
	12			
	1	保護者アンケートの実施 児童アンケートの実施 自己評価の実施		
年間評価	2	評価結果の分析・結果の共有 改善策の検討 今年度の課題を明確にし、次年度の方針を検討		学校だより・ＨＰでアンケート結果・改善策を公表
年間評価	3		第３回開催 学校運営協議会による評価の実施（学校関係者評価）	

鳳徳だより 令和７年度 特別号

令和７年９月
京都市立鳳徳小学校
校長 坂井 仁
TEL 075-491-3592
FAX 075-491-0616

HP http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/houtoku-s/

学校教育目標
『互いを認め合い 自分の考えをもち
表現する子の育成』

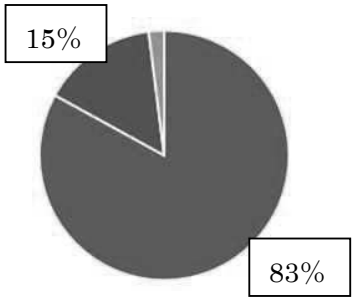
- ほ ほんきでがんばる子
- う うれしさいっぱいの子
- と ともだちをたいせつにする子
- く くじけずすすむ子

前期 学校アンケートの集計結果をお知らせします

「前期 学校アンケート」にご協力いただきありがとうございました。学校アンケートは子どもを育む当事者として学校と家庭が一体となって教育をすすめることを目的とし、よりよい学校づくりのために行っています。「児童へのアンケート」と「保護者へのアンケート」の結果をまとめて報告いたします。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

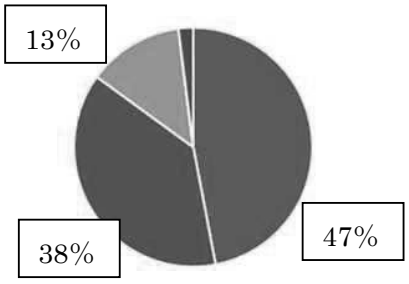
【児童アンケートより　成果と課題　】

○友だちと仲良くしている。



児童アンケートからは、「楽しく学校に来ている」「友だちと仲良くしている」の項目で９５％以上の多くの児童ができていると答えていました。「自分の思いや考えを伝えている」が８５％とやや低いです。「また家で読書をしている」児童も６５％となっています。各教科の学習で対話する活動を取り入れ、自分の考えを伝える経験を積んでいけるように授業改善を行います。また１２月には読書週間を設定し、読書の楽しさを伝えていきます。

●自分の思いや考えを伝えている。



	◆児童アンケート◆	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
	日常生活に関すること				
1	楽しく学校に来ている。	69%	28%	2%	1%
2	家族や先生、地域の人に自分からすすんで挨拶をしている。	53%	37%	8%	2%
3	友だちと仲良くしている。	83%	15%	2%	0%
5	物を大切にし、後片付けをしている。	49%	41%	9%	1%
6	きまりや約束をしっかり守っている。	51%	43%	5%	1%
	学校教育目標に関すること				
7	あきらめずに最後まで学習している。	64%	28%	7%	1%
8	相手の話をしっかり聞いている。	60%	35%	5%	0%
9	自分の思いや考えを伝えている。	47%	38%	13%	2%
	健康や安全、家での生活に関すること				
10	家での学習をいつもしている。	52%	29%	15%	4%
11	家で本を読んでいる。	44%	21%	24%	11%
12	家族の一員としてお手伝いをしている。	43%	37%	16%	4%
13	家の人と自分のことや学校のことを話している。	59%	25%	13%	3%
14	早寝早起きなど健康を考えて過ごしている。	43%	41%	11%	5%

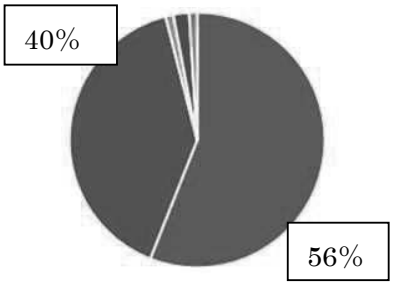






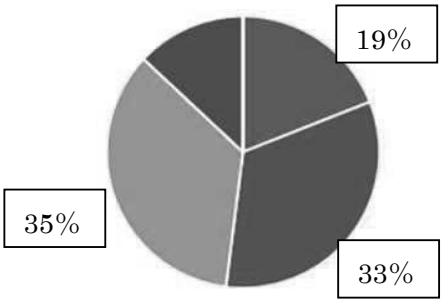
【保護者アンケートより　成果と課題】

○子どもは楽しく学校に通っている



「子どもは楽しく学校に通っている」の項目では、よくできている５６％、大体できている４０％の結果でした。これからもすべての子どもが安心して通える学校を目指し取り組んでいきます。家庭での読書習慣については児童アンケートと同じく「よくできている」１９％、「大体できている」３３％と低い結果でした。様々な情報機器に触れる機会が増えてきていますが、読書の良さも知っていってほしいと思います。

●子どもは家庭で読書している。



◆保護者アンケート◆		よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	わからない
	日常生活に関すること					
1	子どもは楽しく学校に通っている。	56%	40%	1%	2%	1%
2	子どもは家庭や先生、地域の人に進んで挨拶をしている。	24%	63%	11%	0%	2%
3	子どもは友だちと仲良くしている。	45%	49%	1%	1%	4%
4	子どもは物を大切にし、後片付けをしている。	9%	53%	35%	3%	0%
5	子どもはきまりや約束を守っている。	23%	65%	11%	1%	0%
6	学校はわかりやすい授業をしている。	37%	52%	2%	0%	9%
	学校教育目標に関すること					
7	子どもはあきらめずに最後まで学習している。	32%	57%	9%	0%	2%
8	子どもは相手の話をしっかり聞いている。	22%	62%	12%	0%	4%
9	子どもは自分の思いや考えを伝えている。	26%	60%	13%	0%	1%
	健康や安全、家での生活に関すること					
10	学校は健康や安全に配慮した教育活動を行っている。	39%	55%	0%	1%	5%
11	学校は人権を大切にした教育活動を行っている。	35%	53%	2%	1%	9%
12	学校は保護者と連絡を密にしている。	35%	60%	3%	1%	1%
13	学校は保護者と連携した取組を行っている。	32%	59%	3%	0%	6%
14	学校は方針や取組をわかりやすく伝えている。	33%	61%	5%	0%	1%
15	子どもは早寝早起き等、健康を考えて過ごしている。	30%	50%	18%	1%	1%
16	子どもは家庭学習の習慣が身についている。	32%	48%	16%	4%	0%
17	子どもは家庭で読書している。	19%	33%	35%	13%	0%
18	子どもは家庭でお手伝いしている。	16%	40%	40%	4%	0%
19	保護者は子どもと触れあう機会をもっている。	33%	56%	11%	0%	0%







●自由記述欄より●**たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。（一部文言を修正して紹介しています。ご了承ください。）**

・去年までは本が好きで、家でも沢山読書をしていたのですが、最近はタブレットで動画ばかり見るようになってしまいました。時間制限はしているのですが、本への興味が急速に失われてしまったことがとても残念です。
・猛暑下での運動不足が心配です。学校では暑さ指数による外遊びの制限など、安全に配慮して頂きとてもありがたく、また安心してお任せできています。反面、暑さからの回避で体を動かす機会が減る事を心配しています。
・すぐーるを通じて学校の取り組みは細かく伝えて頂いていると感じています。また毎週の学級通信でも、写真を掲載しながら子ども達の取り組みの様子などを伝えて頂いており、子どもからの話ではわからない、笑顔が見られたり、興味津々でいろんな人の話し聞けている様子がわかり、安心しております。
・地域と連携した小学校として、校門が常時、開いていますが、やはり防犯面に不安が残ります。→令和７年度より児童の登校後、門をロックしています。来校の際はインターホンを押してください。お手数をおかけしますがよろしくお願いいたします。

鳳徳だより 令和７年度 特別号

令和8年2月

京都市立鳳徳小学校
校長 坂井 仁
TEL 075-491-3592
FAX 075-491-0616

HP http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/houtoku-s/

学校教育目標
『互いを認め合い 自分の考えをもち
表現する子の育成』

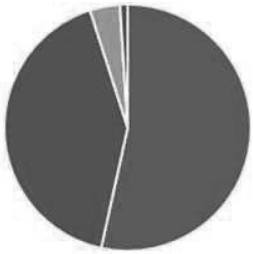
- ほ ほんきでがんばる子
- う うれしさいっぱいの子
- と ともだちをたいせつにする子
- く くじけずすすむ子

後期 学校アンケートの集計結果をお知らせします

「学校アンケート」にご協力いただきありがとうございました。学校アンケートは子どもを育む当事者として学校と家庭が一体となって教育をすすめることを目的とし、よりよい学校づくりのために行っています。「児童へのアンケート」と「保護者へのアンケート」の結果をまとめて報告いたします。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

【児童アンケートより　成果と課題　】

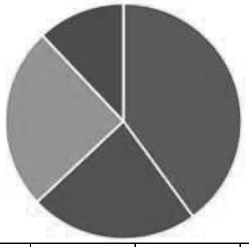
○きまりや約束をしっかり守っている。



よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない
54%	42%	3%	1%

児童アンケートからは、「楽しく学校に来ている」「友だちと仲良くしている」の項目で９５%以上の多くの児童が「できている」と答えていました。後期は、「きまりや約束をしっかり守っている。」と答えた児童が前期よりも増えました。「家で読書をしている」児童は前期に引き続き「できている」と答えた児童が少なかったです。引き続き、学級文庫の入れ替えや図書委委員会からのおすすめ図書の紹介などを通して読書の楽しさを伝える取組を続けます。

○家で本を読んでいる。



よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない
40%	23%	25%	12%

	◆児童アンケート◆	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
	日常生活に関すること				
1	楽しく学校に来ている。	66%	30%	4%	0%
2	家族や先生、地域の人に自分からすすんで挨拶をしている。	46%	43%	11%	0%
3	友だちと仲良くしている。	76%	24%	0%	0%
5	物を大切にし、後片付けをしている。	44%	43%	11%	2%
6	きまりや約束をしっかり守っている。	54%	42%	3%	1%
	学校教育目標に関すること				
7	あきらめずに最後まで学習している。	60%	31%	8%	1%
8	相手の話をしっかり聞いている。	55%	40%	4%	1%
9	自分の思いや考えを伝えている。	40%	43%	15%	2%
	健康や安全、家での生活に関すること				
10	家での学習をいつもしている。	48%	32%	14%	6%
11	家で本を読んでいる。	40%	23%	25%	12%
12	家族の一員としてお手伝いをしている。	42%	32%	23%	3%
13	家の人と自分のことや学校のことを話している。	54%	30%	13%	3%
14	早寝早起きなど健康を考えて過ごしている。	38%	46%	13%	3%





【保護者アンケートより　成果と課題】

○子どもは友だちと仲良くしている



よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない	わからない
47%	50%	1%	0%	2%

「子どもは友だちと仲良くしている」の項目では、よくできている４７%、大体できている５０%の結果でした。互いを認め合い、仲良くする姿が見られます。後片付けについては「あまりできていない」「できていない」を合わせて３７%と低い結果でした。持ち物を整頓することで、自分のものを管理し、なくし物、忘れ物も少なくなるようにしていきたいです。

●子どもは物を大切にし、後片付けをしている。



よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない	わからない
8%	55%	32%	5%	0%

◆保護者アンケート◆		よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	わからない
	日常生活に関すること					
1	子どもは楽しく学校に通っている。	50%	47%	3%	0%	0%
2	子どもは家庭や先生、地域の人に進んで挨拶をしている。	20%	64%	14%	0%	2%
3	子どもは友だちと仲良くしている。	47%	50%	1%	0%	2%
4	子どもは物を大切にし、後片付けをしている。	8%	55%	32%	5%	0%
5	子どもはきまりや約束を守っている。	26%	62%	9%	2%	1%
6	学校はわかりやすい授業をしている。	36%	57%	1%	0%	6%
	学校教育目標に関すること					
7	子どもはあきらめずに最後まで学習している。	35%	50%	10%	1%	4%
8	子どもは相手の話をしっかり聞いている。	26%	55%	15%	2%	2%
9	子どもは自分の思いや考えを伝えている。	20%	62%	14%	2%	2%
	健康や安全、家での生活に関すること					
10	学校は健康や安全に配慮した教育活動を行っている。	48%	45%	0%	1%	6%
11	学校は人権を大切にした教育活動を行っている。	42%	45%	1%	1%	11%
12	学校は保護者と連絡を密にしている。	40%	55%	2%	0%	3%
13	学校は保護者と連携した取組を行っている。	37%	57%	1%	0%	5%
14	学校は方針や取組をわかりやすく伝えている。	40%	55%	2%	0%	3%
15	子どもは早寝早起き等、健康を考えて過ごしている。	21%	56%	21%	2%	0%
16	子どもは家庭学習の習慣が身についている。	24%	48%	23%	5%	0%
17	子どもは家庭で読書している。	22%	28%	37%	13%	0%
18	子どもは家庭でお手伝いしている。	20%	45%	33%	2%	0%
19	保護者は子どもと触れあう機会をもっている。	27%	66%	7%	0%	0%







●自由記述欄より●**たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。（一部文言を修正して紹介しています。ご了承ください。）**

・家庭での読書についてですが、家庭内で親が本を積極的に楽しもうと心掛けています。自身が少しでも読書タイムを作り、子と本の内容や作者について話をしたり、子が借りてきた本を私も読ませてもらったりする事で、子の興味や関心事や好きな作者も分かり、そこからおすすめを紹介するなどして読書時間がひろがっています。本を楽しむ時間が増え、ゲームやテレビ等の時間が自然に減っている事を感じています。

・ネットやゲームとの付き合い方については、悩みのあるご家庭が多いのではないかと思います。今は 30 分というタブレットの使用時間を守れていますが、友達がゲームを持っているという話をよくしており、家でのルールをどうするか悩んでいます。

・お便りや連絡事項がアプリで配信されるので、確認しやすくて有り難いです。

・失敗を恐れずに挑戦するよう家庭で伝えているので、学校でも子どもが安心して様々なことに挑戦できる環境づくりをお願いできればと思っています。

＜参　考＞

京都市立洛西中学校における実践事例

〇所在地　京都市西京区大原野西境谷町２丁目８
〇生徒数　２４２名（令和７年５月１日現在）
〇創　設　１９７９年（昭和５４年）
〇中学校ブロック
　洛西中学校、新林小学校、境谷小学校

※　「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

令和７年度　京都市立洛西中学校　学校教育目標

「自立・貢献・夢さがし」

～自信と誇りをもって自らの未来を切り拓く、たくましい生徒を育てる～

【自己決定を繰り返し、自己肯定感を上げることによって自信をつけさせる。】

【目指す生徒像】

① 学ぶ楽しさとわかる喜びを実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒〈知〉
② 自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒〈徳〉
③ 自他の命を大切にし、健康で安全な生活習慣を身につけられる生徒〈体〉

【目指す教職員像】

① 常に生徒を中心に据えて、一人ひとりの生徒を大切にし、生徒に寄り添う教職員
② 確かな教育理念と使命感をもち、自覚と責任ある行動がとれる教職員
③ 学び続ける意識と高い専門性をもち、生徒や保護者、地域の方々から信頼される教職員

【目指す学校像】

① 生徒が「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、目を輝かせて主体的に学ぶ学校
【自己肯定感が生まれる授業づくり ＝ 互いを認め、互いを高め合える対話的な学習活動】
【主体的に学びに向かう「問い」の設定 ＝ 予備発問・中心発問・振り返り発問などの効果的な発問】
生徒の発言場面を増やし、基礎基本な学力の定着】
② 自他の違いを認め尊重し、各自が自尊感情を高め、人権の大切さを体感できる学校
【自己指導力の育成 ＝ 生徒指導の三機能「自己決定・自己存在感・共感的人間関係」 を活かす。】
③ 地域との連携を重んじ、地域の支援を強みにし、地域から信頼される学校
【人づくりは町づくり ＝ 総合的な学習の指導を中心として、地域から学びを広げ地域に貢献】

学校経営方針

◇ 「認め合い、支え合い、高め合い」をモットーとする。
◇ 「人・時・物」を大切にし、何事にも「迅速・丁寧・徹底」を実践する。
◇ 生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）をすべての教育活動に活かす。
◇ 「働き方改革」「部活動ガイドライン」の趣旨を踏まえ、メリハリのある業務を推進する。

重点目標

１．　一致協力した学校体制の確立

① 職員室の風通しを良くし、自らの職責を果たすとともに、お互いを認め合い、支え合い、高め合う教職員集団を目指す。
② 生徒・保護者への迅速で丁寧な対応を徹底し、生徒・保護者と信頼関係を構築する。
③ 教育課程（カリキュラム）の編成、実施、評価、改善を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高める。カリキュラム・マネジメントを適切に実施する。
④ 教職員の共通理解を図るため、報告・連絡・相談・記録の徹底を図る。

２．　確かな学力の育成

① 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、授業において既習の学習内容との関連付けを意図的に行う。各教科・領域において、「説明・論述・発表・討論」等の対話

的な活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。
② 自ら「課題を発見・設定」し、「課題を調べ解決」しようとする探究活動を推進し、知識・技能の活用を図り、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。
③ LD 等支援の必要な生徒がよりよく学べるために、ユニバーサルデザイン（視覚に訴える、指示は短く適切に行う、間違っても大丈夫な雰囲気づくりを行う等）の授業づくりを推進し、ユニバーサルスクールを目指す。
④ 授業の目標を明示し、生徒の興味・関心を引く導入の工夫、考えたくなるような発問、「わかった」・「できた」の喜びを感じさせる展開、１時間を振り返ることができる適切な板書などを実践する。
⑤ 授業の中で、「わかった」・「できた」の喜びを感じさせることが、何よりも生徒の自己肯定感の向上につながることを意識して取り組む。
⑥ GIGA スクール構想に則って、端末を有効に活用し、生徒の学習の質が高まるように取り組む。
⑦ 単元の中で指導に活かす評価【形成的評価】と、記録に残す評価【総括的評価】を充実させ、指導と評価の一体化を図る。授業と連動させた予習・復習の積み重ね等により、家庭学習（自学）の習慣を定着させる。

３．　豊かな心の育成

① 学級活動や学校行事、また部活動等において仲間づくりを推進する。
② いじめを許さず、誰もが安心・安全に過ごせる居場所としての学級集団になるように生徒理解に努め、見逃しのない観察、手遅れのない対応、心の通った指導を徹底する。
③ 学級活動や委員会活動、また学校行事において、生徒が活躍できる場面を意図的に設定し、時を逃さず褒めるようにし自尊感情を高める。
④ 生徒の自主性を重んじ、自治を意識した生徒会活動を推進し、生徒の自己有用感を高める。
⑤ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を目指す。
⑥ インターネット上での誹謗中傷や個人情報の流失等を許さない、正しい判断力を身に着けさせるため、様々な教育活動と関連付けて情報モラルの育成に努める。
⑦ 教育相談体制の充実や「心の居場所」づくりを推進するために、スクールカウンセラーと緊密に連携を図る。
⑧ 感動体験活動や心を耕す道徳授業の充実を図り、公共心や思いやりの心等を育成する。
⑨ 人権の視点を踏まえ、育成学級との交流など多様性（ダイバーシティ）を認め合える集団づくりに取り組む。

４．　健やかな体の育成

① 運動やスポーツを実践し、体力の向上を図る。
② 食事、運動、休養、睡眠の調和のとれた生活習慣を確立する。
③ 性や飲酒、喫煙、薬物等に関する指導の充実を図る。
④ 交通事故、水難事故、災害等から身を守る安全教育の取組を推進する。
⑤ 「早寝・早起き・朝ごはん」等の望ましい生活習慣の確立に向けて、随時、生徒に指導するとともに、家庭連絡や懇談会等において保護者に啓発を行う。
⑥ １年生で非行防止教室・ケータイ教室、２年生で防煙教室、３年生で薬物乱用防止教室を実施し、その危険性・有害性の認識を高める。
⑦ ＳＮＳを通して性的被害にあわないように、生徒への指導と保護者への啓発を実施する。

５．　人権教育・特別支援教育の充実

① 生活の中で行動化できる人権教育を推進する。
② いじめ・暴力・性非行等を許さない集団づくりを行う。
③ 個のニーズに基づく教育（ユニバーサルデザイン等）を推進する。
④ 両性の本質的平等や LGBTQ 等について理解し、お互いを思いやり、よりよい関係を築くために、性に関する指導を系統的に実施する。
⑤ 違いを認め尊重し合い、「心のバリアフリー」を推進するために、アイマスク・点字学習、車いすバスケットボール体験等を実施する。
⑥ 民族差別をなくすために在日韓国・朝鮮人などの外国人問題に関して、「共に生きる人間」としての理解を深める。
⑦ 「部落差別解消推進法」に基づき、部落差別のない社会を実現することを目指して、適切な行動がとれるように人権学習を実施する。

６．　校種間連携と保護者・地域との連携

① 保幼小中高との連携、小中一貫教育を推進する。
② 小・中の管理職間の交流を深め、「子どもを中心に据えた」教職員同士の交流を推進する。
③ 小中主任会、小中拡大主任会を定期的に実施し、小中一貫教育を推進する体制づくりを行う。
④ 学力向上の取組を実践し、小・中学校が連携して学力の分析・検証を行い、授業改善に取り組む。
⑤ 保護者・地域から信頼・応援される開かれた学校づくりを推進する。地域の教育力を活用した取組を推進する。

７．　教職員の働き方改革について　**【働きがい・やりがい＝ ①協働・協調＋②立場理解】**

① 生徒指導に関わることについては、生徒・保護者としっかり向き合い、最優先に取り組む。
② 事務的な仕事については、期日・実施日等の見通しを立て、優先順位をつけて効率的に行う。
③ 生徒・保護者に丁寧に関わり教育効果を挙げつつ、教員の負担を軽減し効率化を進めるため適切な見通しをもち、学年・分掌のデータの引継をきちんと行う。
④ 教職員が互いの仕事ついて、「気配り」「目配り」「心配り」をもって連携し合い、協働の意識と行動を醸成する。
⑤ 働き方改革については、定期的に削減してもよい仕事について議論し、教育の質を保ちつつ効率的に仕事ができるように検討していく。

『自立・貢献・夢さがし』のために

◇「主体性」の育成【主体性とは自ら問いをもち、自分の意志や判断で粘り強く行動すること。】

▶生徒が好奇心や興味関心をもち夢や希望を語り、その実現に向けて「自ら学ぶ力」を高めることができるように、様々な教育活動において働きかけを行う。

◇「社会性」の育成【社会性とはより良い人間関係を形成し、多様な他者との協調を大切にしながら、集団の一員として自己の能力を発揮して行動すること。】

▶他者や社会との関わりの中で育まれる「豊かな人間性や道徳性・協調性」を生徒が身に付けられるように、様々な教育活動を工夫し「自らを律する力」を高める。

令和７年度　学校評価について

洛西中学校

１　評価のねらい

学校教育目標「自立・貢献・夢さがし～自信と誇りをもって、自らの未来を切り拓く、たくましい生徒を育てる～」の実現に向けて、本校では学習指導と生徒指導が一体となって組織的に取り組み、それぞれの指導が互いに連携・連動する仕組みを構築し、連続性をもった学校づくりを進めている。

・「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、目を輝かせて主体的に学べるよう、授業改善と授業力の向上を目指し、自己肯定感が生まれる授業づくりと主体的に学びに向かう工夫と改善を行う。

・自他の違いを認め尊重し、それぞれが自尊感情を高め、人権の大切さを体感できる生徒を育てるために、自己指導力の育成を目標とした生徒指導の三機能「自己決定・自己存在感・共感的人間関係」を活かし、学校生活の隅々に生かすことができる人間関係を構築する。

２　重点評価項目

（１）「確かな学力」の育成に向けて

・「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感できるように、授業を工夫・改善する。

・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それらを活用する場面を意識的に設定する。

・ICT を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

・夢や希望を実現するために、計画的に家庭学習（自学）に取り組めるようにする。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

・規則正しい生活習慣の確立と規範意識の育成を目指す。

・自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支い合い、高め合える学級・学年集団づくりを行う。

・すべての教育活動の場面で、自己肯定感や自己有用感等の自尊感情を高める。

・人権についての理解を深め、人権を守る態度を育て、問題解決のために行動できる力を培う。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

・運動やスポーツを実践し、体力の向上を図る。

・変化する生活様式に対応し、組織的かつ計画的に健康管理や安全管理に取り組む。

・食事、運動、休養、睡眠の調和のとれた生活習慣を確立する。

・性や飲酒、喫煙、薬物等に関する指導の充実を図る。

（４）学校独自の取組

・コミュニケーション能力を育成するための“対話的な活動「～つながる・深める・伝え合う～」”の充実を図る。

・生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。

（５）教職員の働き方改革について

・働き方改革について、学校全体で定期的に協議を行い、教育の質を下げずに効率的に業務を行える取組を推進する。

・若年教員や学生が、魅力を感じる学校づくりをＯＪＴの視点も踏まえ推進する。

・様々な家庭事情を持つ教職員が協力し合えるよう、持続可能な勤務態勢を構築する。

３　評価項目の検討方法

・学校教育目標の達成に向け、「子どもにつけたい資質・能力」を都度考え、見直しを図り、教職員全体の意識改革を行うことにより、目指すこども像と目指す教職員像を本校の実態に応じた内容に設定している。

・経年比較ができるよう、変更しない評価項目も設け、教育活動と学校運営の改善に繋げられるようしている。

・これらの評価項目については、学校運営協議会において、子どもの意識と行動の変容及び保護者の意識との関連性に着目して、どのような項目とするのか協議を行っている。

・小中９年間の系統的な指導を活かし、小中連携を促進させるために、中学校ブロック（小中合同評価会議）で協議を行い、小中共に同じ評価項目を設定することにより、小中の校種間と各校の変化の把握と課題の共有を行っている。

４　評価手法

・生徒、保護者、学校運営協議会理事、教職員へのアンケート調査（７月・１２月の年２回実施）

・保健室の来室状況

・全国学力・学習状況調査の実態調査アンケート結果

・学校運営協議会理事の学校評価に対する評価検証結果

５　自己評価

（１）「確かな学力」の育成に向けて

一人一人の生徒の教科ごとの困りや躓きをどのように支援していくのか、学習活動の中で具体的な支援の手立てをどのように工夫するのかを、校内研修会で協議した中で、個に応じた適切な学習支援を実施していくためには、生徒が見通しをもって、主体的に学習活動に取り組めるよう授業内容の工夫、授業目標の明示、生徒の興味・関心を引く導入の工夫、スモールステップの発問等、一人一人がわかる喜びを感じられる「協働的な学び」の展開を、全教科で実践していきたい。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

一人一人が活躍できる場面を計画的に設定することにより、意図的に褒める場面が増えてくると、生徒の自己肯定感や自己有用感を高められるため、生徒会活動を中心に、生徒が自己決定できる場面を学年・学級活動で展開し、自己存在感を高める取組を行う中で、共感しあえる人間関係を育んでいくなど、継続した取組を行っていきたい。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

基本的な生活習慣が定着していない割合が高く、生徒の家庭的な背景や生活習慣を十分に理解する必要がある。保健の授業や特別活動などで望ましい生活　習慣を確立することの大切さを伝えるとともに、保護者に対しても懇談会や給食試食会などで発信することで、保護者の理解を深め、連携を図り、睡眠時間の確保とバランスの良い食生活を送ることができるように、生徒と家庭の両方の啓発を継続して行う。

（４）学校独自の取組

主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、生徒の学習の質が高まるよう、ＩＣＴ端末などを有効活用した協働的な学習を計画的に進めていきたい。また、生徒会活動にお

ける立案（意思決定）や運営に、生徒を積極的に参画させ、自ら考え、主体的に活動に取り組もうとする意識を向上させたい。さらに、一人一人が活躍できる場面を意図的につくり、互いに認め、褒め合うことで、自己肯定感や自己有用感を高められるよう努めていく。

（５）教職員の働き方改革について

教材準備などに費やす時間を含め、どのように効率的に仕事を行い、時間外勤務を縮減するかが課題である。教職員の働きがいについては、教職員が互いの仕事分担ついて配慮と思いやりをもって連携し合い、互いに協力し合える体制をつくっていきたい。

６　学校関係者評価

（１）「確かな学力」の育成に向けて

・相手の話が自分の考えと違っても、意見を受け入れて聞くことを大切にしてほしい。また、聞き入れた後に、自分の考えを伝えられる力を高められるようにしてほしい。

・家庭学習の習慣を身に着けられるようにしてほしい。また、家庭学習に取り組みにくい子どもには、興味関心をもたせられるように支援してほしい。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

・子どもの心の成長を大切にし、子どもの前向きな意欲を育ててほしい。

・子どもが自ら考え、行動できる習慣を育てるために、思考力・判断力を少しでも高められる学習や集団作りの活動を進めてほしい。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

・規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）や、正しい生活習慣を身に着けることがどれだけ大切か等について、保護者へ積極的に啓発することにより、心身の安定にも繋がる。学校と保護者が一体となり、意識の共有を図っていきたい。

（４）学校独自の取組

・友達同士で教え合ったり、合い学び合ったりすることを通して、人間関係を深めたり、達成感を感じたりできるような活動を、少しでも多く体験させてほしい。

・地域との繋がりを活かした、総合的な学習の時間などの取組で、地域の方々の仕事への想いや、取組への想いなどを学んでいくことで、これから地域を担う一人として、育つことを期待している。

（５）教職員の働き方改革について

・教育効果を保ちながら、働き方改革を理解するように努めてもらいたい。

・教職員の主体的な動きから超過勤務が増えないよう、優先順位をつけて仕事を行ってもらいたい。

・勤務時間外の仕事ができるだけ少なくなるよう、学校全体で意識するだけでなく、効率的に仕事を行うため、教職員同士が協力する意識をもってもらいたい。

・保護者連絡ツールを活用することにより、朝の家庭への連絡の時間短縮や、遅刻や欠席に関する情報を全校で共有できることが有効であった。

７　ICT 化の推進や働き方改革の推進、学校運営等、社会変容に応じた取組内容

（学校評価の実施に際して）

・学校評価の回答方法を Forms に変更したことにより、紙媒体で回答していた時よりも回答率が低下した。今後は、Forms と紙媒体のどちらで実施するのか検討し、より多くの意見を基に考えていきたい。

８　総括・次年度に向けた課題等

令和５年度以降、学校体制として組織的な対応の課題を明確にし、学習指導と生徒指導の一体化を主眼にしてきた。学校教育目標の実現を目指し、学校運営を基盤に、各学年運営の柱を共有することを年々強化することを進めている。その中で、教職員が生徒に寄り添いながらきめ細かく支援したことにより、生徒が教職員の指導・支援を積極的に受け入れるようになってきた。また、生徒指導委員会や教育相談係会などで、組織的に生徒の困りや躓きを把握し、個の実態に応じた一層細かな視点を持ち、適切な支援を進めたことで、共通理解を図っている。

生徒の落ち着きが一定見えてきたため、次年度は、生徒同士の対話的な教育活動を推進し、学力向上を一層進めていくために、生徒を中心に据えて自己選択から自己決定できる場面を計画的に設け、自己存在感を高める働きかけや共感的人間関係を育んでいくことを粘り強く取り組んでいきたい。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

１　既に改善した点

・「学校教育目標の重点目標７項目の後ろにある、『自立・貢献・夢さがしのために』とあるが、この位置づけが曖昧であり、教育目標・教育課程・教育活動との関係において、位置づけを明確にすべきである。」という意見を受け、なぜこの言葉とするのか学校全体で考えた。学校教育目標の中の位置づけとして、１年生は「自立」、２年生は「貢献」、３年生は「夢さがし」を各学年の柱として捉え、それぞれの学年の柱が支える教育活動としてカリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた総合的な学習の時間における「探究活動」を充実することを全校で進めるために、３年間指導計画の見直しと、各学年の年間指導計画の振り返りを行い、次年度の取組計画に反映させた。

・「中堅・ベテラン層が、目指す学校像や育てたい生徒像などを理解・共感して、若手教員をリードする活動に、さらに工夫が必要ではないか。」という意見を受け、OJT の視点を取り入れた校内授業研修会を実施した。研修では、学習活動の中で困りを抱える生徒を観察した様子から、どのような個別の学習支援が効果的なのか、集団学習をより効果的に行う手立て及び対話的な活動を深める「問い」の立て方などを、中堅・ベテラン層が中心となりながら、教員同士で協議し、これまでの経験値や教科の枠に留まらず日常の学習に生かすことができる具体的な指導ついて、実践例とアイデアを出し合うことで、深めることができた。

２　今後改善する点

・「不登校の生徒は親の同意がなくても、サポートルームの利用ができるようにしてもよいのでは。保護者自身が支援を必要とする場合や、保護者が子どもに無関心である場合など、子どもが通いたくても保護者の同意を得られないので通えない状況が発生すると思った。」という意見を受け、生徒指導委員会では、子どもの実態と保護者の状態をできるだけ細かに確認したうえで、子どもを主体とした取組に転換し、子どもの意思を尊重できるように働きかけていくことを進める。

・「関係者評価は、アンケート結果だけではなく、学校の目指す姿や生徒の様子などを積極的に地域に発信してほしい。」という意見について、これまで学校の HP や学校だよりを活用して発信していたが、来年度は１学期に実施する学校説明会において、学校教育目標と合わせ、今年度の学校評価結果や子どもの様子を保護者に伝え、改善していく具体的な取組内容を提示することにより、学校評価を「保護者の意識啓発」と「家庭での子どもへの積極的な関りの促進」へ繋げていきたい。

・「学校評価結果を基に、なぜそのような結果になったのかという原因や考察が明示されておらず、改善策を実行されているのか分かりづらかった。」という意見を受け、校内の運営委員会で評価結果をまとめることを目的とするのではなく、校内研修会のテーマとして取り上げ、全校の教職員で改善策を協議していくことを計画立てる。

（別添様式３）

令和７年度　学校評価年間計画　　洛西中　学校

学校評価のねらい

学校評価を教育活動全体の改善に役立てるとともに、生徒個人及び学年・学校全体の伸びや成果を認め、生徒や教職員の励みとし学校教育目標の達成を図る。

		評価の検討と実施	学校運営協議会	公表の時期と方法
年間評価	4	・教育指導計画書の作成 ・学校評価委員会の開催 ＊今年度学校評価について検討	・学校運営協議会委員の任命手続	・学校だより・ホームページ等 ＊学校教育目標等を公表
	5			
	6		・学校運営協議会の開催…① ＊学校評価年間計画と予定について確認 ＊学校教育目標の説明と承認	
	7	・前期学校評価アンケートの実施 ＊生徒アンケート ＊保護者アンケート ＊運営協議会委員アンケート ＊教職員アンケート		
	8			
中間評価	9	・学校評価委員会の開催 ＊前期学校評価について分析 ＊改善策について検討		
	10		・第１回小中合同検証会議の開催（小中合同実施）…② ＊前期学校評価について検証	
	11		・学校運営協議会の開催…③ ＊小中合同検証会議結果の報告伝達 ＊前期学校評価結果の協議	・学校だより・ホームページ等 ＊前期学校評価結果と今後の改善策を公表
	12	・後期学校評価アンケートの実施 ＊生徒アンケート ＊保護者アンケート ＊運営協議会委員アンケート ＊教職員アンケート		
年間評価	1	・学校評価委員会の開催 ＊後期学校評価について分析 ＊今後の方針について検討	・第２回小中合同検証会議の開催（小中合同実施）…④ ＊後期学校評価について検証	
	2		・学校運営協議会の開催…⑤ ＊小中合同検証会議結果の報告伝達 ＊後期学校評価結果の協議	・学校だより・ホームページ等 ＊後期学校評価結果と今後の方針を公表
	3	・次年度に向けた申し送りと、次年度の方針について共通理解		

【洛西中学校】 令和7年度 学校評価（前期）結果について【保護者様　地域の皆様】

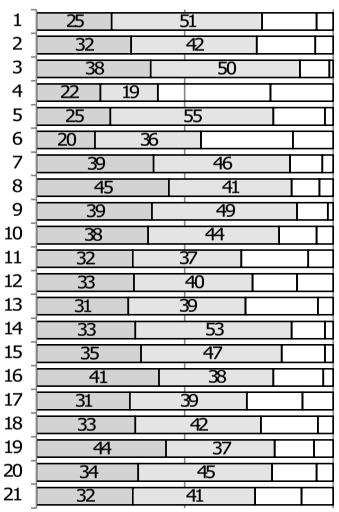
令 和 ７ 年 １ ０ 月
京都市立洛西中学校

○目指す子ども像（ブロック共通） 夢の実現に向けて共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成
重点目標（児童生徒の共通する課題より）（1）コミュニケーション能力を育成するための“言語活動”を充実する。～つながる・深める・伝え合う～　（2）児童生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。
○洛西中学校めざす生徒像 ①「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒〈知〉 ②自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒〈徳〉
③ 命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るくいきいきと生活できる生徒〈体〉

※単位は%

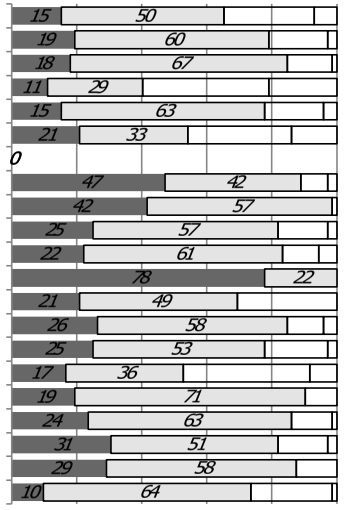
		質問項目	そう思う 生徒	そう思う 大人	大体そう思う 生徒	大体そう思う 大人	あまり 生徒	あまり 大人	思わない 生徒	思わない 大人	空白 生徒	空白 大人
確かな学力	1	学校の勉強はわかりますか	25	15	51	50	18	28	6	7	0	0
	2	自分の意見や考えを話すことができていますか	32	19	42	60	20	67	6	3	0	0
	3	人の意見や考えをしっかり聞くことができていますか	38	18	50	67	10	29	1	1	0	0
	4	進んで本を読むことができていますか	22	11	19	29	38	39	21	21	0	0
	5	毎日，忘れ物をせずに，学習の準備をすることができていますか	25	15	55	63	17	18	3	4	0	0
	6	毎日，家庭学習をすることができていますか	20	21	36	33	31	32	14	14	0	0
	7	授業や学校生活の中でがんばったことを先生はほめてくれますか	39	0	46	0	11	0	4	0	0	0
豊かな心・健やかな体	8	学校に楽しく通うことができていますか	45	47	41	42	9	8	5	3	0	0
	9	学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか	39	42	49	57	10	1	2	0	0	0
	10	地域の人，先生たち，友だちに進んであいさつができていますか	38	25	44	57	13	15	6	3	0	0
	11	規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）ができていますか	32	22	37	61	23	11	8	6	0	0
	12	自分にはよいところがあると思いますか	33	78	40	22	15	0	12	0	0	0
	13	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか	31	21	39	49	24	31	5	0	0	0
	14	学校のきまりや約束を守ることができていますか	33	26	53	58	11	11	3	4	0	0
	15	自分で決めたことを、進んでやろうとしていますか	35	25	47	53	15	19	3	3	0	0
	16	自分から進んでそうじや係活動，委員の人は委員会活動ができていますか	41	17	38	36	17	39	3	8	0	0
学校・家庭・地域の連携	17	学校からのプリントをお家の人に見せていますか	31	19	39	71	19	10	10	0	0	0
	18	わからないことや困っていることを先生に相談することができていますか	33	24	42	63	19	13	5	1	0	0
	19	お家の人に学校でのできごとを話していますか	44	31	37	51	13	15	7	3	0	0
	20	お家の人や地域の人からほめられることがありますか	34	29	45	58	15	13	6	0	0	0
	21	地域の人との交流（洛フェスや学区民運動会等の行事）を楽しみにしていますか	32	10	41	64	15	25	11	1	0	0

生徒



そう思う　大体そう思う　あまり　思わない　空白

保護者・学校運営協議会



そう思う　大体そう思う　あまり　思わない　空白

「確かな学力」（アンケート番号①～⑦）

Ⅰ．基礎的・基本的な知識・技能の定着
★アンケートⅠ「学校の勉強はわかりますか」について、「そう思う」が25%、「だいたいそう思う」が51%で、76%の生徒が「概ねわかる」と回答しており、前年度の後期より15ポイント減少しました。既習の学習内容において基礎的・基本的な知識の定着を一層図り、「できた」という実感を授業後に持たせ、興味関心を高めていきます。またスモールステップを積み重ねて達成感と自信をつけさせることにより、次に学ぼうとする主体的な学習意欲を高め、粘り強く学びに向き合う力を育成できるよう校内授業研究取り組みを通して、授業改善を進めていきます。

２．思考力・判断力・表現力の向上
★アンケート２「自分の意見や考えを話すことができていますか」については、「そう思う」が32%で、「だいたいそう思う」が42%で、74%の生徒が「概ねできている」と回答しており、前年度の後期より5ポイント減少しました。思考力・判断力・表現力を伸ばすためには、まず自分の考えをまとめ書くことで論理的思考を整理し、他者へ自分の思いや考えを話し伝えることで深まっていくので、ペアやグループでの対話的な学習活動を単元の中で計画し、習慣化できるように授業設計を行い、各教科・単元で継続して取り組んでいきます。
★アンケート３「人の意見や考えをしっかり聞くことができていますか」については、「そう思う」が38%、「だいたいそう思う」が50%で、88%の生徒が「概ね聞くことができている」と回答しており、前年度の後期より6ポイント減少しました。「聞く」力を高めることは、互いに思考判断したことを伝え合い、他者の考えと比較するために大切であり、自己分析が一層進むと考えます。このことが思考力や判断力等を高めることに繋がっていき、授業の中で新しい発見ができる楽しさや喜びになると考えます。
★アンケート４「進んで本を読むことができていますか」については、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が41%で、前年度の後期より2ポイント増加しました。総合的な学習に時間や朝の帯時間の中で、読書の取り組み時間を増やし、興味・関心を高める工夫を行っていきます。

３．家庭学習の習慣化
★アンケート６「毎日、家庭学習をすることができていますか」については、「そう思う」が20%、「だいたいそう思う」が36%で、56%の生徒が「概ね家庭学習に取り組んでいる」と回答しており、前年度の後期より11ポイント減少しました。翌日の授業に繋がる家庭学習課題を設定することで、自学の結果が個別評価されることにより、学習習慣の形成を進めていきます。

「豊かな心・健やかな体」（アンケート番号⑧～⑯）

Ⅰ．自己肯定感や自己決定の育成
★アンケート８「学校に楽しく通うことができていますか」については、「そう思う」が45%、「だいたいそう思う」が41%で、86%の生徒が「概ね登校できている」と回答しており、前年度の後期より2ポイント減少しました。学校祭等の大きな学校行事を中心として、一人一人が活躍できる場を意図的に設定し、互いの活躍を認め合うことから、自己肯定感や自己有用感を伸ばすことができるように支援を行い、より良い仲間づくりを推進して、安心して学校生活を送ることができるように全体と個別の支援を行っていきます。
★アンケート９「学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか」については、「そう思う」が39%、「だいたいそう思う」が49%で、88%の生徒が「概ね大切にされていると思う」と回答しており、前年度の後期より6ポイント減少しました。共感的な人間関係づくりを教育活動全体の中で取り組み、互いを高め支え合うことが、自分や相手にとって不可欠であるという価値観の定着を図ります。
★アンケート12「自分にはよいところがあると思いますか」については、「そう思う」が33%、「だいたいそう思う」が40%で、73%の生徒が「概ねよいところがあると思う」と回答しており、前年度の後期より4ポイント減少しました。生徒が主体的に活躍できる場面と、互いの努力を認め合える場面を意図的・計画的につくることを継続していきます。生徒会活動を中心に、生徒から生徒への提案や発信を行う場面を増やすことにより、過ごしやすい学校をつくっていく意欲をもたせていきたいと思います。生徒が中心となった取り組みで成功体験を積み重ねていき、生徒に自信をつけさせていきたいと思います。
★アンケート15「自分で決めたことを進んでやろうとしていますか」については「そう思う」が35%、「だいたいそう思う」が47%で、82%の生徒が「概ねやろうとしている」と回答しており、前年度の後期より5ポイント減少しました。生徒が自己決定を行い、できそうな目標を設定し、励ましと承認の繰り返しによって、挑戦したことが周りから認められることで、次の行動に繋げていきたいと考えます。

２．基本的生活習慣の確立
★アンケート11「規則正しい生活ができていますか」については、「そう思う」が32%、「だいたいそう思う」が37%で、69%の生徒が「概ねできている」と回答しており、前年度の後期より4ポイント減少しました。睡眠時間の確保と栄養を十分に摂ることは、思春期の成長期には不可欠であり、脳を活性化させ学習効果を高めるためにも、保健だよりを活用した生活に関する指導や、生徒・保護者に規則正しい生活習慣の啓発を行っていきます。

「学校・家庭・地域との連携」（アンケート番号⑭～⑱）

Ⅰ．家庭・地域との連携
★アンケート18「わからないことや困っていることを先生に相談することができていますか」については、「そう思う」が33%、「だいたいそう思う」が42%で、75%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より1ポイント減少しました。教職員が生徒の気持ちに寄り添い、細かな働きかけを継続して行い、生徒の心情理解を大切にしていきます。
★アンケート19「お家の人に学校でのできごとを話していますか」については、「そう思う」が44%、「だいたいそう思う」が37%で、81%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期と同じポイントでした。
★アンケート20「お家の人や地域の人からほめられることがありますか」については、「そう思う」が34%、「だいたいそう思う」が45%で、79%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より5ポイント減少しました。家庭で子どもたちと共通の話題で話を行う中で、他者から評価されることが子どものモチベーションを高めることになります。子ども自身の判断に基づいて、場面に応じて適切な行動の選択が行えた時には、どんなに小さなことでも行動を認め褒めらることが自尊感情を高め、自己決定をする力を獲得していくことにつながります。大人が子どもたちをきめ細かく見取り見守ることを通して、生徒と家庭・地域・学校の大人との信頼関係がつくられていきます。信頼できる人間関係により、子どもが自立すできる人間的な成長に結びつくと考えています。
★アンケート21「地域の人との交流（洛西ふれあいフェスティバルや学区民運動会等の行事）を楽しみにしていますか」については、「そう思う」が32%、「だいたいそう思う」が41%で、73%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より1ポイント増加しました。地域の人たちとのふれ合いの場である地域行事に対して、地域行事に参加することに関心をもち、地域とのつながりを意識して地域に貢献できる人材を育てていきたいと思います。

２．あいさつの習慣化
★アンケート10「地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか」については、「そう思う」が38%、「だいたいそう思う」が44%で、82%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より1ポイント増加しました。道徳や学級活動においても、挨拶の大切さを伝える学習や挨拶から始まる人間関係づくりの取り組みを生徒が主体となって取り組んでいきます。

洛西だより
竹の子
令和７年12月24日発行
京都市立洛西中学校
文責：校長　小林鉄男
第１０号
「自立・貢献・夢さがし」～自信と誇りをもって、自らの未来を切り拓く、たくましい生徒を育てる～

令和７年度全国学力・学習状況調査の結果・分析！

毎年４月に、日本全国の３年生で実施される全国学力・学習状況調査は、皆さんの学習状況を知り、皆さんの可能性を伸ばしたり、課題を解決したりしていくために役立てていくものです。洛西中学校においても学習状況調査の結果から、一人一人の生徒たちが自己実現をできるような学習の取り組みを進めていきたいと思います。大切なことは自分の課題がどこにあるのかなどを、しっかりと捉えて、学び直しに積極的に活かしてほしいと思います。私たち洛西中学校教職員も、各教科の授業をよりよく改善するために、今回の結果を活かしていきます。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していきます。望ましい生活習慣を身につけて、日々の学習の土台をつくっていきましょう。

本校の国語科より



知識・技能の言語分野における基礎的な力や、様々な状況にも対応できるような思考・判断・表現を育てるために、個別の支援と協働的な学習形態を取り入れた授業づくりを進めていきます。また授業後に自分自身を振り返ることで、学習内容を確実に定着できると思われます。一つ一つの学習内容に対して焦らずに自分の学習の目標を立てて取り組めるように、主体的な授業づくりを進めていきます。また、重点項目として挙げている読書の有用性を発信していき、読書に向かう生徒を育成していくことによって、読み取った内容を基に思考し、自分の考えを形成する活動に繋げることを日常的に行える機会を増やしていきます。

本校の数学科より



数と式の計算力や公式の活用や、思考・判断・表現の内容では問題文から条件を整理し、式やグラフを用いて数量関係を表すことが苦手である結果が出ています。思考を必要とする問題に取り組む機会を増やしていき、「なぜそうなるのか」を説明する活動に取り組み、論理的な表現の育成を行っていきたいと考えます。そしてグループ学習での対話的学びをもち、思考の過程を説明し互いに検討し合う学習活動を取り入れた授業づくりを進めていき、思考力・判断力・表現力の向上を進めていきます。生徒同士の「協力しながら一人一人の子どもを伸ばす」授業を継続することで、「わかる」・「できる」を増やしていけるように取り組んでいきます。

本校の理科より



理科の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つようにすることは、理科の学習が大切であることを理解するために、授業の中で日常生活における身近な製品などを例にあげて、科学の歴史や進歩がわかる教材や資料を紹介するなど、興味・関心を高める導入を工夫していきたいと思います。理科の課題を解決するには、簡潔に比較説明することや、課題に対して考察を記述することに繰り返し取り組み、最後まであきらめずじっくり考えて答える習慣を身に着けることが大切です。授業の中で実験に取り組む学習活動では、実験観察を通じてグループでの協力や話し合いの活動を少しずつ増やしていき、理科に関する思考力や判断力を高めていきます。

本校３年生の生徒質問紙より



京都市の目指す方向性と照らし合わせて、本校３年生の生徒の「長所」と「課題」から、生徒たちは自己肯定感が高く、様々な意見を交流させることの楽しさや、将来地域や社会をよりよくするために働くことの魅力を感じ、人の役に立てるような仕事を見つけることに対しても肯定的に感じていることがわかりました。

一方、将来社会の中で自己実現をしながら生きていきたいと感じてはいますが、自己実現するためには日々の学習が大切であることや、授業内容を自分自身の生活や人生設計に結び付けられていない生徒が多かったことがわかりました。アンケート結果より長所と課題は次のようになりました。

（１） 長所について

- 自己肯定感が高い。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- 自分と違う意見について考える楽しさを感じている。
- 地域や社会をよくするために何かしたいと考えている。

（２）課題について

- 授業で学習したことが、将来社会に出たときに役に立つと感じていること。
- 学級活動で話し合い、互いの意見の良さを活かして解決方法を決めていること。
- 休日の学習時間が極端に少ない傾向があること。
  （全体の６０％以上の家庭学習時間が１時間未満）
- 家庭での読書時間が極端に少ない傾向があること。（全体の７０％が１０分以下）
- 授業の中で自分の考えがうまく伝わるように資料や文章を活用して、話の組み立てなどを工夫して発表すること。
- 総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集めて整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むこと。
- 道徳の授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組むこと。

まとめ

本校の学校教育目標である**「自立・貢献・夢探し　～自信と誇りをもって自らの未来を切り拓く、たくましい生徒を育てる～」**へと生徒たちと導くためには、各授業での取り組みを充実することと、家庭学習を含めた自主的に学ぶ姿勢を促すことが大切であると考えます。さらに「授業の学びを日常生活に生かし、将来を自ら築いていく力の育成」という視点で、教科の授業を大切にしていきます。教科の学びを活かす場として、「総合的な学習の時間」「道徳」「特別活動」などの横断的・総合的な課題解決や探究的な活動を実施する取り組みを、学校全体として継続して進めていくことは不可欠であると考えています。

また、「仲間と協力して課題に取り組む」という「協働学習」も大切にしています。一人一人の力を高めていき、周囲の人たちと協力して課題を解決する力は、これからの社会を生きていくうえでも支えとなる大切な力です。生徒も教職員もともに取り組むことで、一人ひとりの生徒が「自信」と「誇り」をもって自らの未来をたくましく切り拓ける、「自立・貢献・夢さがし」ができるよう教職員一同、引き続き取り組みを進めてまいります。

本校生徒の学力向上のために、これからも学校・家庭・地域で協力して、一人ひとりの子どもたちの未来のために、様々な取り組みを実施していきたいと思います。保護者の皆様、今後ともご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

洛西中学校 令和7年度 学校評価（後期）結果について 【保護者・地域の皆様】

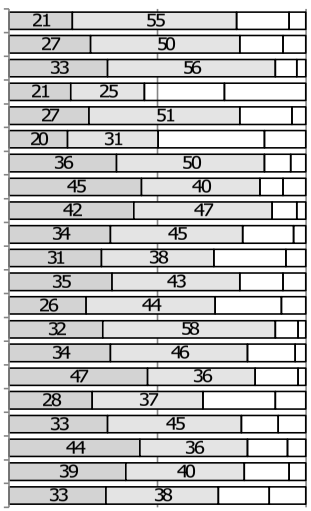
令 和 8 年 2 月
京都市立洛西中学校

○【ブロック共通】目指す子ども像『自己実現に向けて、協働的に学び、粘り強く挑戦する子の育成』 ～9年間を通した系統性ある取組～
○【ブロック共通の児童生徒の課題より】重点目標 （1）自己実現するための基礎学力・思考力育成 （2）社会性・協調性を持った自律した児童・生徒の育成
○洛西中学校めざす生徒像 ①「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒【知】 ②自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒【徳】 ③ 命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るくいきいきと生活できる生徒【体】

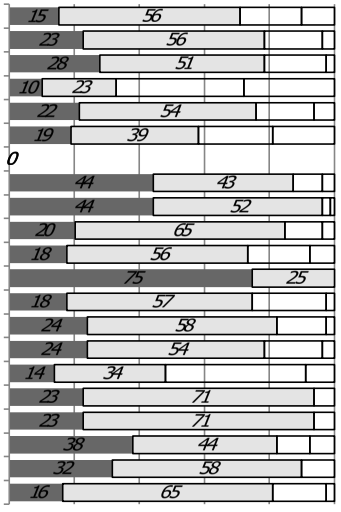
※単位は%

		質問項目	そう思う 生徒	そう思う 大人	大体そう思う 生徒	大体そう思う 大人	あまり 生徒	あまり 大人	思わない 生徒	思わない 大人	空白 生徒	空白 大人
確かな学力	1	学校の勉強はわかりますか	21	15	55	56	18	19	6	10	0	0
	2	自分の意見や考えを話すことができていますか	27	23	50	56	15	51	8	4	0	0
	3	人の意見や考えをしっかり聞くことができていますか	33	28	56	51	7	23	3	3	0	0
	4	進んで本を読むことができていますか	21	10	25	23	27	39	27	28	0	0
	5	毎日，忘れ物をせずに，学習の準備をすることができていますか	27	22	51	54	18	18	5	6	0	0
	6	毎日，家庭学習をすることができていますか	20	19	31	39	36	23	14	19	0	0
	7	授業や学校生活の中でがんばったことを先生はほめてくれますか	36	0	50	0	9	0	5	0	0	0
豊かな心・健やかな体	8	学校に楽しく通うことができていますか	45	44	40	43	8	9	8	4	0	0
	9	学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか	42	44	47	52	8	3	3	1	0	0
	10	地域の人，先生たち，友だちに進んであいさつができていますか	34	20	45	65	17	11	4	4	0	0
	11	規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）ができていますか	31	18	38	56	24	19	7	8	0	0
	12	自分にはよいところがあると思いますか	35	75	43	25	15	0	8	0	0	0
	13	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか	26	18	44	57	22	23	8	3	0	0
	14	学校のきまりや約束を守ることができていますか	32	24	58	58	8	15	3	3	0	0
	15	自分で決めたことを、進んでやろうとしていますか	34	24	46	54	16	18	4	4	0	0
	16	自分から進んでそうじや係活動，委員の人は委員会活動ができていますか	47	14	36	34	15	43	3	9	0	0
学校・家庭・地域の連携	17	学校からのプリントをお家の人に見せていますか	28	23	37	71	24	6	10	0	0	0
	18	わからないことや困っていることを先生に相談することができていますか	33	23	45	71	12	6	9	0	0	0
	19	お家の人に学校でのできごとを話していますか	44	38	36	44	13	10	6	8	0	0
	20	お家の人や地域の人からほめられることがありますか	39	32	40	58	15	10	6	0	0	0
	21	地域の人との交流（洛フェスや学区民運動会等の行事）を楽しみにしていますか	33	16	38	65	17	16	12	3	0	0

生徒



保護者・学校運営協議会



そう思う　大体そう思う　あまり　思わない　空白

そう思う　大体そう思う　あまり　思わない　空白

「確かな学力」（アンケート番号①～⑦）

1．基礎的・基本的な知識・技能の定着

★アンケート1「学校の勉強はわかりますか」については、「そう思う」21%と「だいたいそう思う」55%の合計は76%で、前期より3ポイント減少し、昨年度の後期より10ポイント減少しました。授業において既習の学習内容との関連付けを繰り返し行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を一層図っていきます。思考・判断したことを表現し伝え合うことにより、主体的に学ぶ意欲を高め、粘り強く学びに向き合う学習習慣を育成できるよう授業改善に継続して取り組みます。

2．思考力・判断力・表現力の向上

★アンケート2「自分の意見や考えを話すことができていますか」については、「そう思う」27%と「だいたいそう思う」50%の合計は77%で、前期より3ポイント減少し、昨年度の後期より2ポイント減少しました。思考力・判断力・表現力を伸ばすためには、資料等を読んで分析したことを基に自分の考えをまとめて書き、対話的な活動に繋げ、自分の考えを話すことを習慣化する授業を展開することにより、論理的な思考が高められるように取り組んでいきます。

★アンケート3「人の意見や考えをしっかり聞くことができていますか」については、「そう思う」33%と「だいたいそう思う」56%の合計は89%で、前期より5ポイント減少し、昨年度の後期より5ポイント減少しました。思考力や判断力の土台となる聞くことについては、自分と相手の考えを比較することが、新たな思考を生むことに繋がり、課題解決ができる学習の反復が知識の定着にも繋がるので、すべての教科の中で「聞く」「話す」活動を意図的に計画していきます。

★アンケート4「進んで本を読むことができていますか」については、「そう思う」21%と「だいたいそう思う」25%の合計は46%で、前期より6ポイント増加し、昨年度の後期より7ポイント増加しました。読むことは思考力を豊かにすることにつながるので、学習活動や特別活動の中で改善を図り、読むことへの興味・関心を高めていきます。

3．家庭学習の習慣化

★アンケート6「毎日、家庭学習をすることができていますか」については、「そう思う」20%と「だいたいそう思う」31%の合計は51%で、前期より10ポイント減少し、昨年度の後期より16ポイント減少しました。家庭学習の習慣がまだ定着していないので、家庭学習で取り組む課題が次の授業に結び付く工夫を行い、家庭学習が習慣化できるようにしていきます。また、端末を活用した教材を進めていき、ミライシードのドリルパークなどで自分に合った学習課題への取り組みを図っていきます。学習への興味関心を高めていくことによって、自分の学習目標を達成することに繋げていきます。

「豊かな心・健やかな体」（アンケート番号⑧～⑯）

1．自己肯定感や自己決定の育成

★アンケート8「学校に楽しく通うことができていますか」については、「そう思う」45%と「だいたいそう思う」40%の合計は85%で、前期より1ポイント増加し、昨年度の後期より3ポイント減少しました。学校行事において生徒たちが活躍している取り組みが展開できたので、その中で互いの活躍を認め助け合ったりするなどから、自己肯定感や自己有用感を伸ばすことができました。今後も生徒に寄り添いながら仲間づくりを推進し、継続した指導と支援を行っていきます。

★アンケート9「学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか」については、「そう思う」42%と「だいたいそう思う」47%の合計は89%で、前期より2ポイント減少し、前年度の後期より5ポイント減少しました。共感的人間関係づくりが定着させて、互いを高め支え合うことが、自分にとっても相手にとっても不可欠であるという価値観が全校に定着させていきます。

★アンケート12「自分にはよいところがあると思いますか」については、「そう思う」35%と「だいたいそう思う」43%の合計は78%となり、前期より4ポイント増加し、昨年度の後期より1ポイント増加しました。生徒の自己肯定感が高まり、失敗を恐れる場面が減ってきていると思われるので、今後もより一層生徒が活躍できる場面を意図的につくり、生徒会活動を中心に生徒の集団を引っ張る場面を増やすことにより、経験値を高め、自信をつけさせていきたいと思います。

★アンケート15「自分で決めたことを進んでやろうとしていますか」については、「そう思う」34%と「だいたいそう思う」46%の合計は80%で、前期より2ポイント減少し、前年度の後期より7ポイント減少しました。生徒が自己決定を行った行動を行いきれていないので、まずは自分ができそうな目標を設定させ、丁寧な励ましと成果の承認を繰り返すことによって、挑戦したことが周りから認められ成果に繋がることを自信に繋げていきます。

2．基本的生活習慣の確立

★アンケート11「規則正しい生活ができていますか」については、「そう思う」31%と「だいたいそう思う」38%の合計は69%で、前期より15ポイント減少し、昨年度の後期より4ポイント減少しました。規則正しい生活のリズムが乱れてきていると思われるので保護者とも連携を図り、睡眠時間の確保とバランスの良い食生活を送ることができるように、生徒と家庭両方の啓発を継続して行っていきます。

「学校・家庭・地域との連携」（アンケート番号⑭～⑱）

1．家庭・地域との連携

★アンケート18「わからないことや困っていることを先生に相談することができていますか」については、「そう思う」33%と「だいたいそう思う」45%の合計は78%で、前期より6ポイント増加し、昨年度の後期より2ポイント増加しました。生徒の思いを確実に受け取り、生徒との関係を構築し続けてきた成果が着実に表れてきました。意識の変容にも注力し成長を支えます。

★アンケート19「お家の人に学校でのできごとを話していますか」については、「そう思う」44%と「だいたいそう思う」36%の合計は80%で、前期より4ポイント減少し、前年度の後期より1ポイント減少しました。

★アンケート20「お家の人や地域の人からほめられることがありますか」については、「そう思う」39%と「だいたいそう思う」40%の合計は79%で、前期より5ポイント減少し、前年度の後期より2ポイント減少しました。親子のコミュニケーションは子どもたちの活力になり、子どもの主体的な判断や行動があった時には、時を逃さずその場で褒めることが大切です。自尊感情を高め自信をつけるためには、大人が子どもたちをきめ細かく見守ることを通して、生徒と周りの大人との関係が深まることにより、生徒の健やかな成長に結びつけていきたいと考えています。

★アンケート21「地域の人との交流（洛西ふれあいフェスティバルや学区民運動会等の行事）を楽しみにしていますか」については、「そう思う」33%と「だいたいそう思う」が38%の合計は71%で、前期と同じで前年度の後期より1ポイント減少しました。今後も地域行事を地域の人たちとのふれ合いの場であると捉え、地域行事に参加できるようになることを通して、地域社会とのつながりを大切にしていき、地域に貢献できる人材を育てることに繋げたいと思います。

2．あいさつの習慣化

★アンケート10「地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか」については、「そう思う」34%と「だいたいそう思う」45%の合計は79%で、前期より3ポイント減少し、前年度の後期より2ポイント減少しました。今後も生徒会活動や学級活動において、全校で挨拶の取組を生徒が主体となる取り組みを進めていきます。